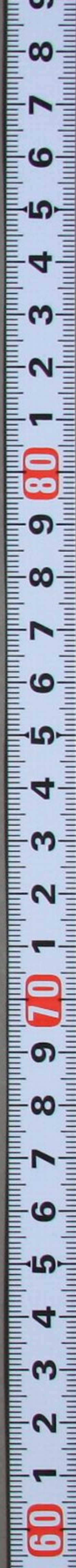




尾張名所圖會
後編

一



岡田啓
野口道直
遺稿
小田切春江
并補綴

尾張名所圖會後編

明治十三年
九月
出版



愛知縣藏版

溫故知新



庚辰二月
定策書



屋張名所因繪後編序

正史之為體大者必記少者或
漏其所漏之類事而猶有可
以見風俗人心之微醜焉者是
乃稗官小說之所以為不可廢
也耶屬者當切春江采跡



以尾張名所圖繪後編曰雜
類之書冊類見玩而其標顯
芳子以為有取乎則請為
一言披而閱之則勝區名蹟
浩穢悉舉古風舊俗之情
狀歷然乎圖記紙上善此撰

地誌者徵諸記傳及傳聞者
為多而親物在地驗其實
者無幾故記風俗叙事蹟
或誤或漏今如此編則是
踏其地目驗其物備證諸如
老及舊藉以謂各取之而

圖成孰究之而書具者或之
以補地誌之一隅抑又思之
治化之要本之於民情之微
醜之所判未嘗有不根其
俗之所由來蓋記錄固為
於古風舊俗其所觀感窮
深故為治者有以資焉然則
此編既可以備史家採摭又
可以供治者參考豈越謂
之非見玩也哉乃揭其所以
之與乎世者書之於首簡

明 沼 庚辰二月

國自廣中撰



葦原眉山書



序



有大木石于此當人挽送一人
唱於許衆應而和思乎轉之也
易者其挽者必盡力也使
挽者一人之意如此者其化國
同舉涉之也然此鄉有
精之執牛耳而耕理宰

割之未必至其體制精美如
斯然則法之之佳侮亦為不
而精之之切大如或嗤嗤之
曰如法子則吾不知精一而為
此運之之舉何余曰吁乎茲禁
名而圖繪者大其滿園之可
名是古者凡出記造意也圖

臨之為物如名區陳諶在事
美潭園記亦法以傳其實也
於乎使人親園之尤尤為捷
徑也且精一法乃在案前之地
不敵枚俎而謀獨劍名法不競之
業而為昇平小補是精一傳
今之之也耳以之職好之詩

寺如玉水之心回轉不仁之症死期在
且夕而程乃能遭乎成業之日為之
序以之緒々言之感考也遂序明治
十三年春一月七十一之寂梅軒中

山清梅題



明治十三年六月二十五



古より屋法多所因多海福刺
たすれりともいふは事々々
徳角の古より此書に在り
物々々々々々々々々々々々々々々々
うかするは事々々々々々々々々々
あふふふふふふふふふふふ

のあつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを

あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを
あつたを〜あつたを〜あつたを〜あつたを

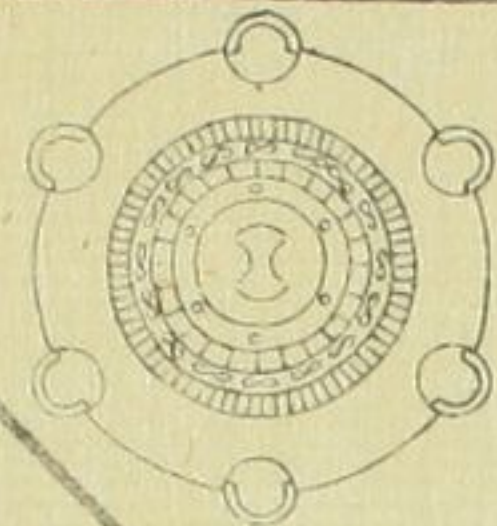
あつたを

あつたを

尾張名所圖會後編卷之一

目錄 中島郡上

中島郡解	一宮村	真清田神社	阿佛尼泰詣の圖
末社	神宝并圖	社領	例祭
馬の頭の圖	桃花會の圖	神主	別宮
神宮寺	社僧福壽院	地藏寺	市立の圖
常念寺	火除櫻	御旗竿	天道社
濱神明社	関氏城跡	牛野	孝子孝女
綿曳轆轤	神戸村	酒見神社	神戸氏宅址
新神戸村	野宮神明社	富士塚	三明神社
彼岸繩手地蔵	武藤氏宅址	神明社	了泉寺
足利義教公詠哥の圖		西方寺	正念寺
野府古城	御裳天神社	義教公詠哥の松	金剛寺



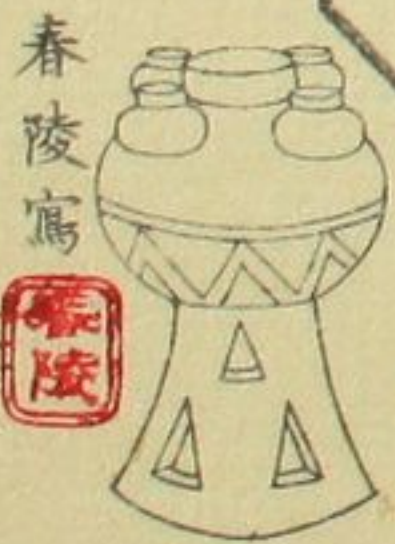
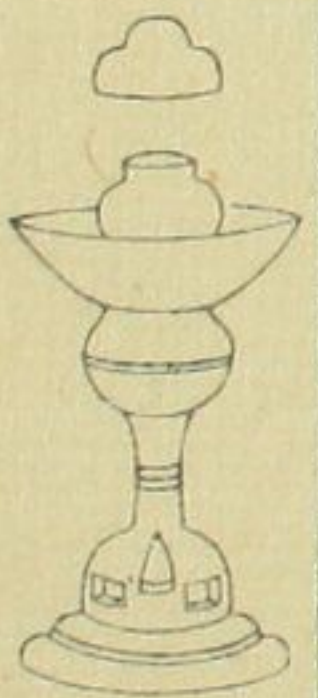
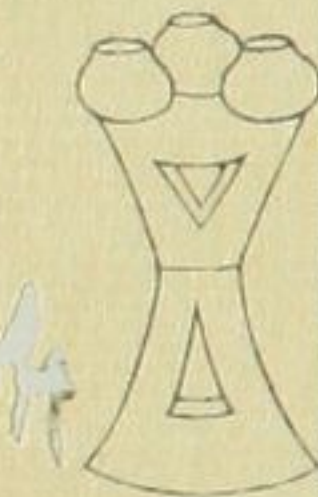
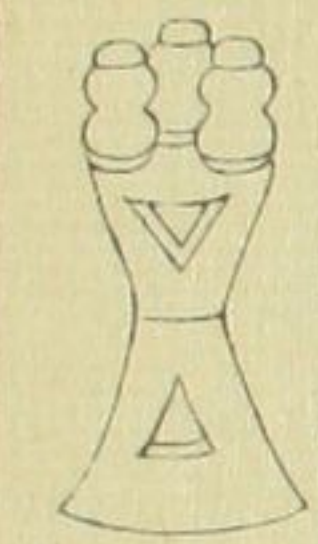
天長三年大納言及六年
正務帳所用 藏印

天長三年十月十日見張圖
國司所用 藏印

藏印

天長三年十月十日見張圖
國司所用 藏印

藏印



春陵寫

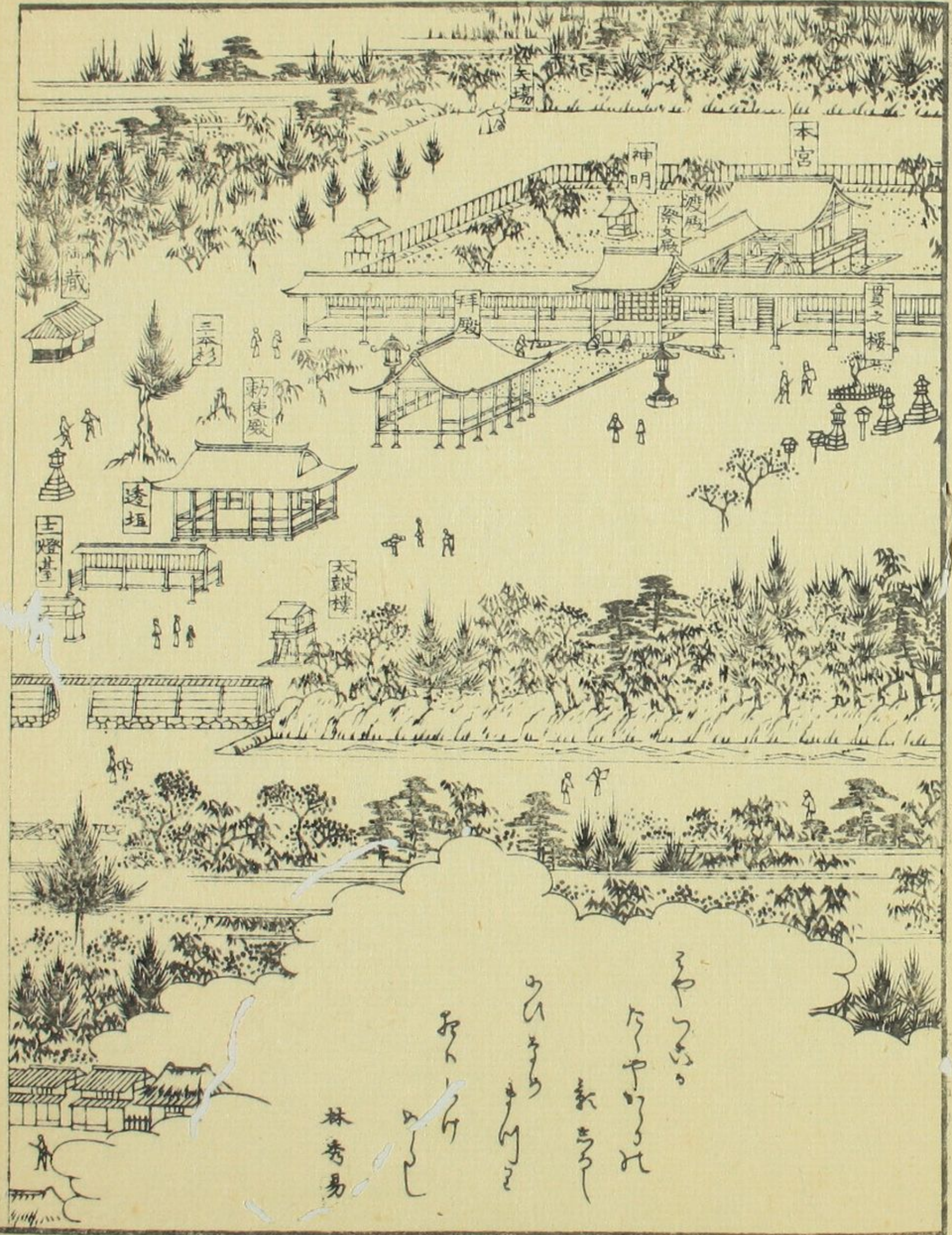


淺井田宮丸城跡
孝貞女三輪の傳
妙興寺
砥塚
陸田御厨
下津里
正明寺
草部御厨
千町田面

國照寺
宮地花池村
同靈宝弘通の図
川曲神社
赤池里
佛徳雷と避し圖
四ッ屋
長束正家宅址
瓦堂廢跡

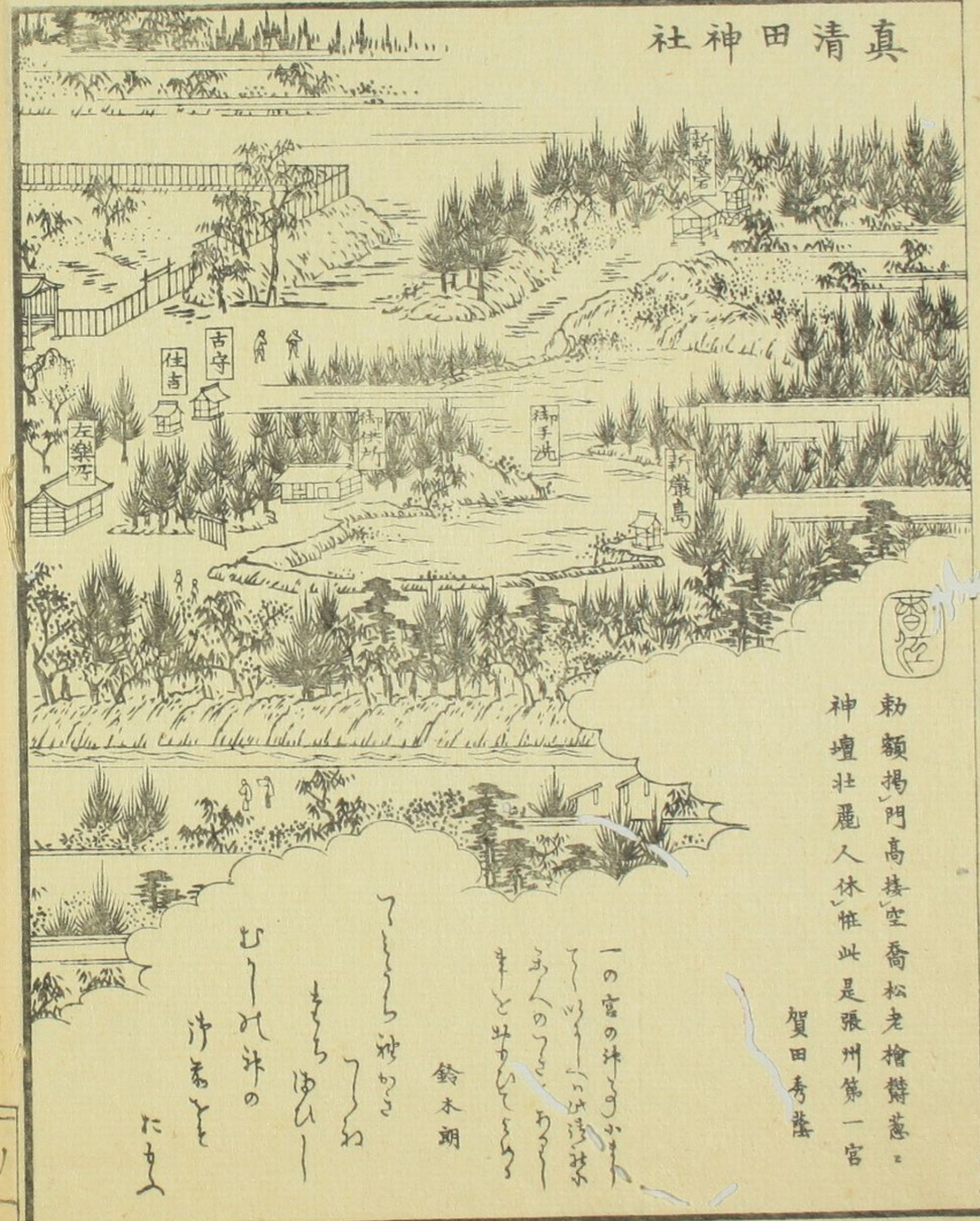
毛受村猿曳
大神神社
万里和尚の古事
大神社
三本木池
織田敏廣城址
淺野長勝屋敷跡
飯尾氏城跡

新安賀惣園
蓮花池跡
小栗海道
拜師舊郷
万徳寺
加藤光泰舊宅
六角堂長光寺
安樂寺



三本杉
 御使殿
 天鼓樓
 林秀易

社神田清真

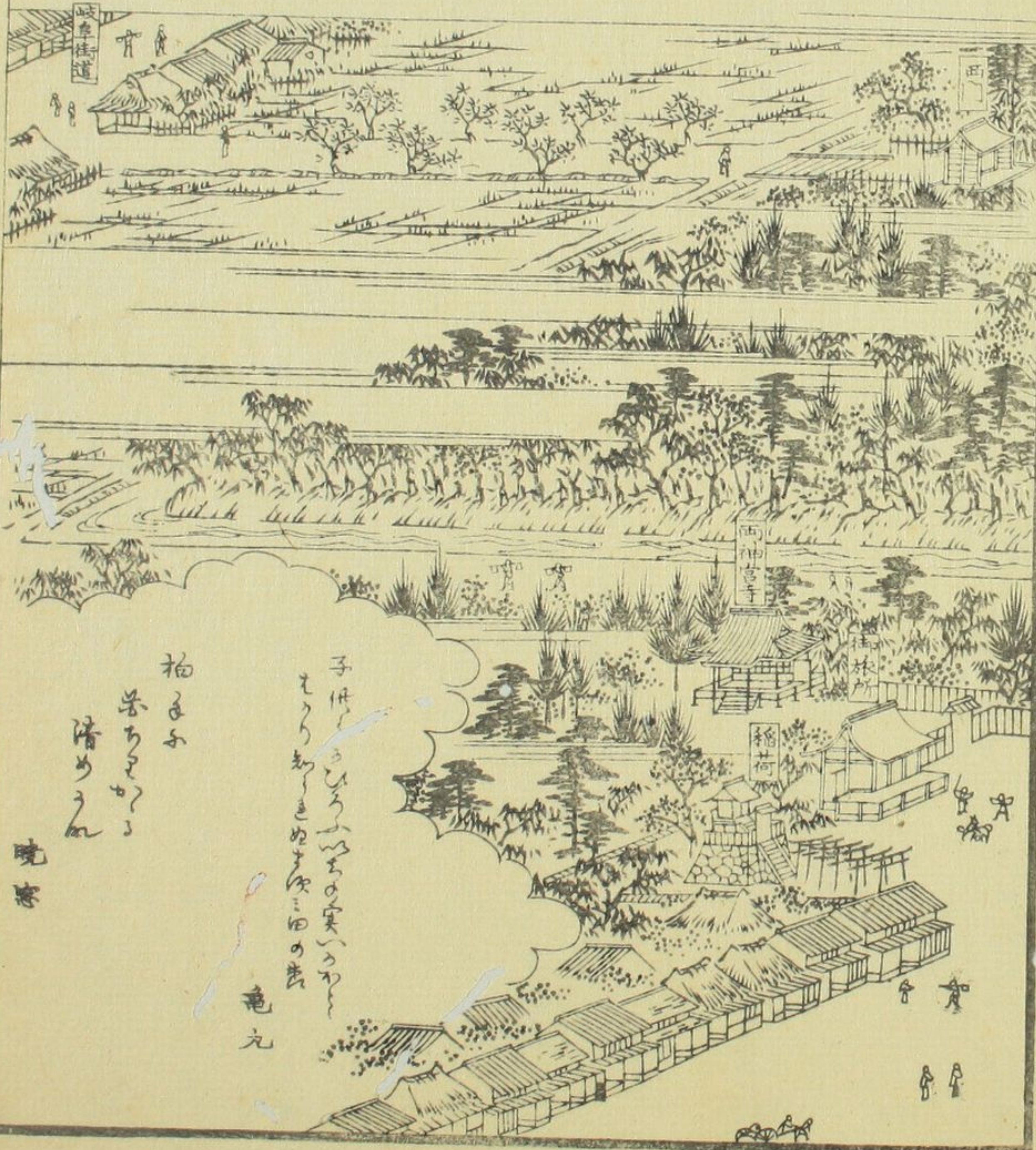


勅額掲門高接空喬松老檜鬱蔥
 神壇壯麗人休惟此是張州第一宮
 賀田秀蔭

一の宮の神宮の
 御手洗の
 幸とありて
 鈴木朗
 びーれ井の
 浄るよと
 にも

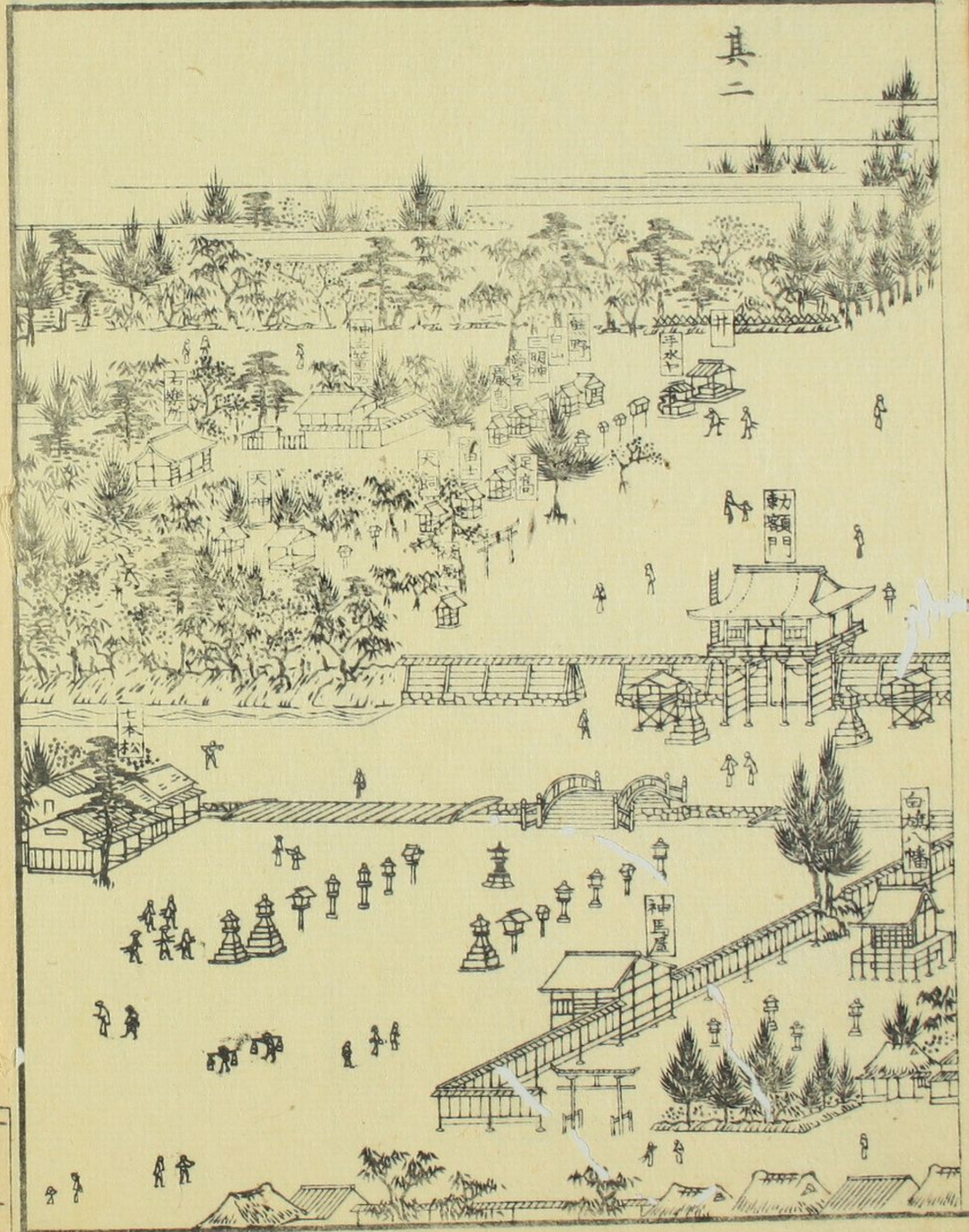
神代より三傳介良之
 久遠の天付の神
 天地代開けの
 海嶽の湯の神
 葦の葉の燈の神
 成すて國常主の
 皇神と御名を
 成すて此の神
 常陸の神の神
 乃てさし置けり
 洲の神の神
 常陸の神の神
 乃てさし置けり
 洲の神の神
 常陸の神の神
 乃てさし置けり
 洲の神の神

秀蔭



子供の
 えりあはれ
 松子
 滝
 滝
 滝

其二



一ノ二

中嶋郡

當郡の國のうらの西成の方にわけて國史とくもり和名抄延喜式
等の古書どもふこれ中島とわたり東に丹羽春日井の二郡小隣
に南に海東海西の兩郡小接し西に木曾川と限り北に粟栗郡
と堺と次郡中山あり田圃のこの地なり尾張風土記殘缺中
島郡民用富貴也材用不少出脩竹紫胡大根胡麻等云々
ふんじり じり墨俣川尾張美濃の國界なりと天正十五年秀吉公本曾川と堺を改り
らるるに墨俣川西郡の東のふんじりあり 由郡中島宮の古縁起ふじり倭
姫命八節の竹杖と四つ折て四方小投りひいさハツの竿竹と生じり
一とこと御園といひ其四隅のうらと中國といひは是中島の郡
名の起まるなりとるる記りり風土記などの古説ふりり
傳へるるれどわやくんふ

一之宮村

由郡のうら東北のうら里と當國一宮大神の鎮坐する地をわづ名づく
由村及びゆふ村等 鳥羽天皇第三の皇女璋子内親王のらに八條院

と稱す由官のゆ願ま真清田といひ一庄園なりま真墨田といひ
ゆらゆらの八條院の御庄の願よりや古くあり地名なり 東鑑小池大納言家

沙汰真清田莊 尾張 八條院御領右莊園任本所之沙汰彼家如元為

有知行勤状如件壽永三年四月六日とんじり又一の宮とて事も

古く同書小承久三年六月五日戊午辰刺關東西將着了尾張國一

宮邊合戰間事有評儀自此所相分方々道云々承久記の同

時合戰の条十六夜日記康富記等の古書どもにか一の宮とあり

て古き地名あり

正一位真墨田神社 一宮村小ませりまふの一の宮と稱す延喜神名式小中島郡真墨
田神社名神あり 式印行本に本國帳小正一位真墨田大神とあり

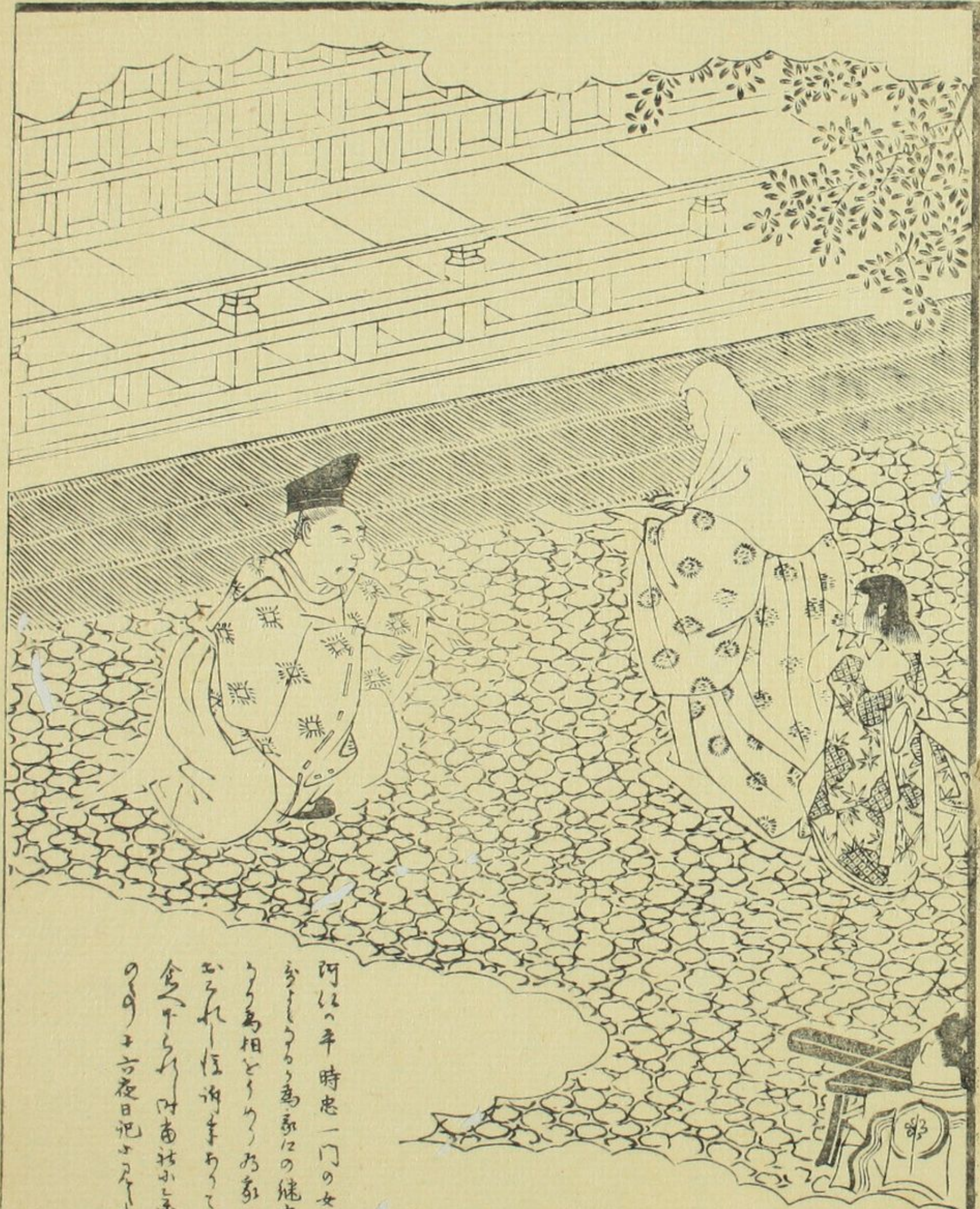
夫由社の鎮坐年歴久遠とて洋々所とて社説よ 神武天

皇三十三年癸巳三月三日松降莊青桃丘 今の一の宮村あり 小御鎮坐より之

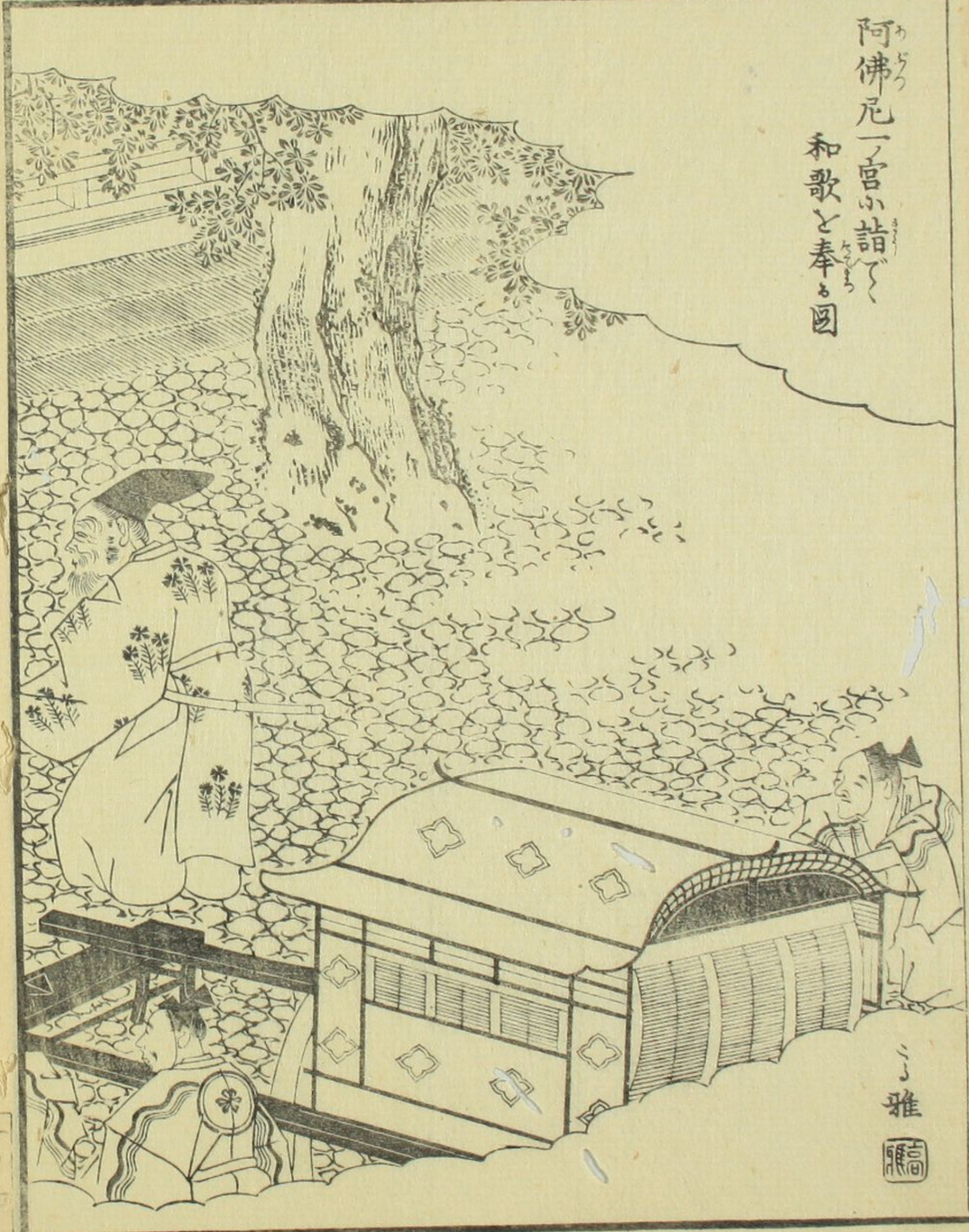
と稱す御神の天神七代のくつめ百王太祖の國常立尊とて坐す

尊神常に天地の中小獨立て万物と化育するふより 天御中王尊


も稱す奉りて天地のるけり ゆらゆらの此清津の灵徳小成



阿比へ平時忠一門の女
 分りしうらゝ高承江の健太
 うらゝ相とくうらゝお家ハ
 おそれ候御事ありて湯
 倉下らけり時苗社にお宿
 のり子方夜日記より



阿佛尼一宮の詣り
 和歌と奉り
 図

雅


あけはなうーがれが往昔御鎮坐ありしより莊麗なる宮殿大小の
神祠常磐堅磐小弥榮え神門を居にのりて老杉古松の中に
巍然として立せり故に延喜式にも名神大社の列ふるに
當國の大社五ヶ所のうち第一の宮なる事分明にて神徳の
仰ぐべし

日本後紀云養和十四年十一月癸酉奉授尾張國元位真清田天神從
五位下
文德實錄云仁壽元年十一月辛巳詔以尾張國真清田神列於官社 同
三年五月辛丑尾張國從五位上真清田神授從四位下
三代實錄云貞觀七年七月廿六日乙巳授尾張國從四位上真清田神正
四位上

家集
此の宮の移り住むるの由を尋ねしに
今葉に真墨田と名付しは武藏の隅田川とよむの川とて小田川と
十六夜日記
一のふしりしは

本社 祭神ハト部兼熊の大日本國一宮記ハ真墨田神社ハ真清田大明神是也大已貴命 尾
張國中島郡と云ふ社説ハ國常立尊天照大神 月讀尊大已貴命 大龍神と

台にありしといふも神祇正典ハ國常立尊也當社祭二神所謂天神七座地神五座也
とありしを合殿ハ大竜神と云ふ事ハ合殿ハ大竜神と云ふ事ハ合殿ハ大竜神と云ふ事
の御宇ハ法大所内と竜神ハ合殿ハ大竜神と云ふ事ハ合殿ハ大竜神と云ふ事
は宮に飛來りて法堂にて合殿ハ大竜神と云ふ事ハ合殿ハ大竜神と云ふ事
ト云ふてりしはこれら縁ありて合殿ハ大竜神と云ふ事ハ合殿ハ大竜神と云ふ事

月之門 拜殿 勅使殿 宝藏 左右樂所 御饌殿 齋館 透垣 西門 神馬
廐 御旅所 一之鳥居 樓門

境内末社 熊野社 白山社 愛宕社 三明神社 巖島社 愛鷹社 淺間社
富士社 天神社 八百萬神社 子守社 住吉社 新巖島社

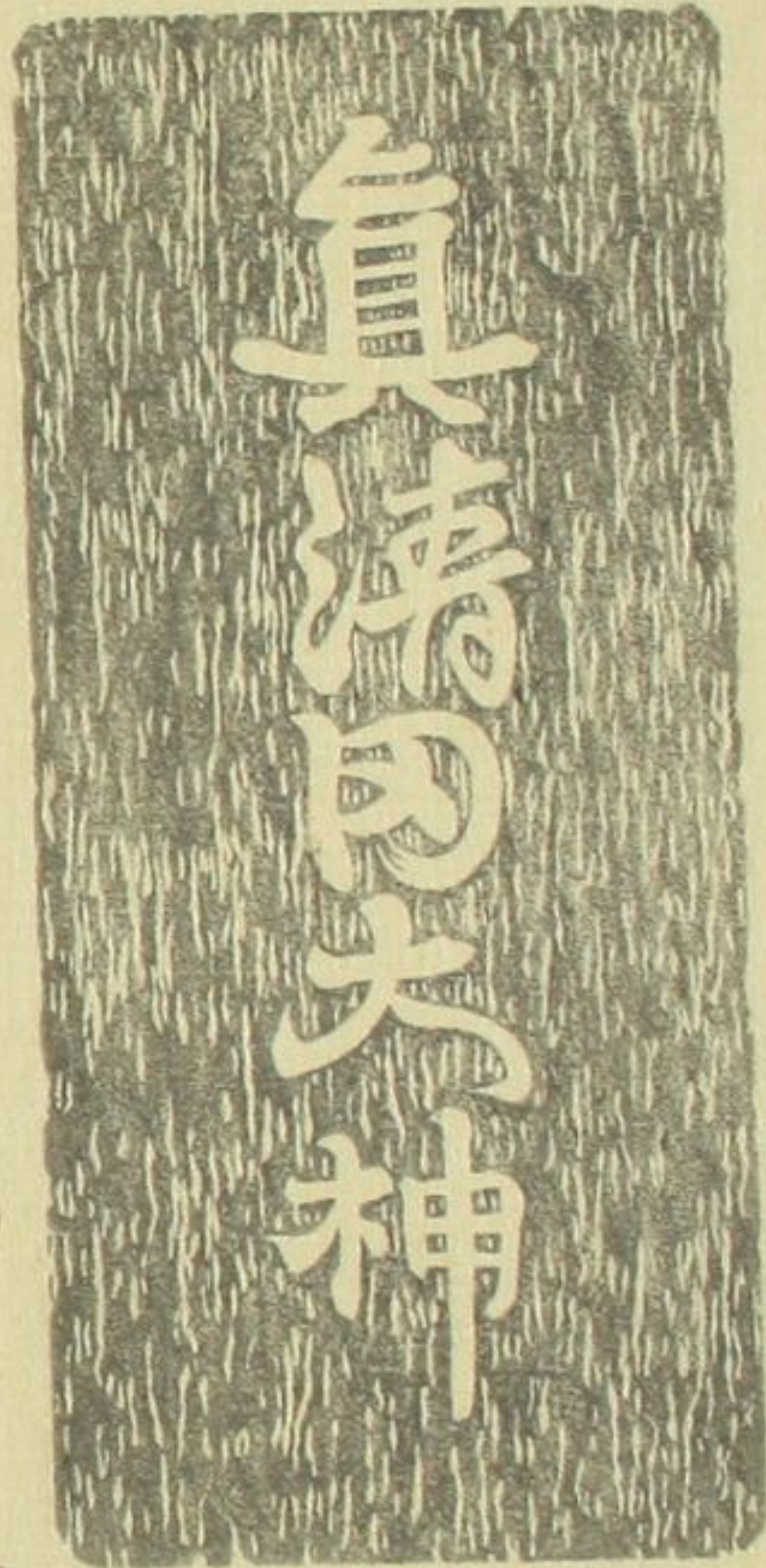
新愛宕社 共に本社の
白旗八幡社 樓門の外の東南の隅に伊豫守源賴義朝臣陸奥
勝利を得らばとて白旗のゆは八幡社と初清りて白旗と村の川の川で淺ひ奉納
ありたりなる里人白旗の社もよき川と流川といひて信せりやまてり川と云ふ

外末社 殿宇四境の神門を居る多し
祿の頃の古園に備りたるを
御鎮座松 古樹枯槁して 貫之櫻 是も今ハ柱継りて修りし紀を之 勅使

御鎮座松 古樹枯槁して 貫之櫻 是も今ハ柱継りて修りし紀を之 勅使
ありしを海に奉納ありし年経て下の白虫とて修りし紀を之 勅使
白と云ひけしは

聖武天皇宸翰古額

神寶

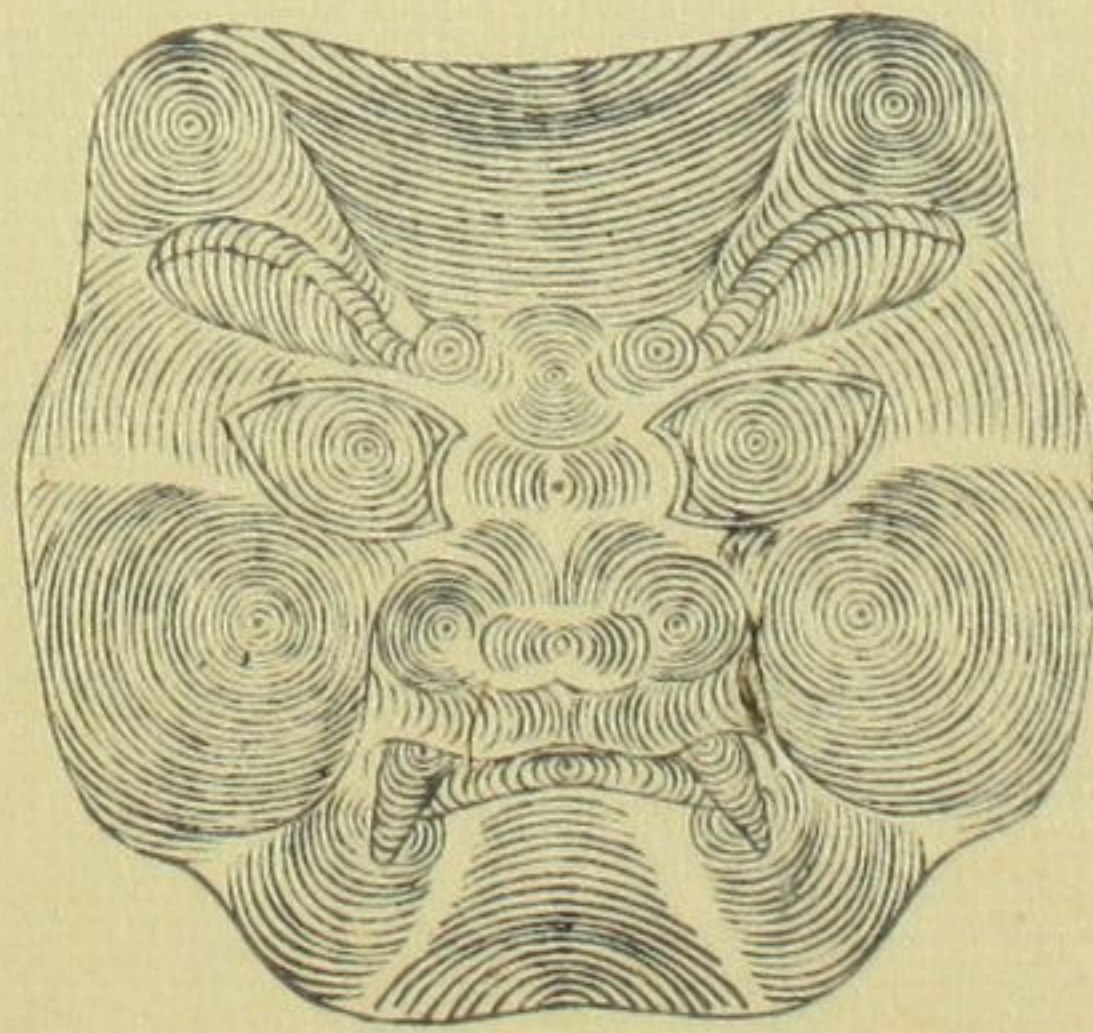
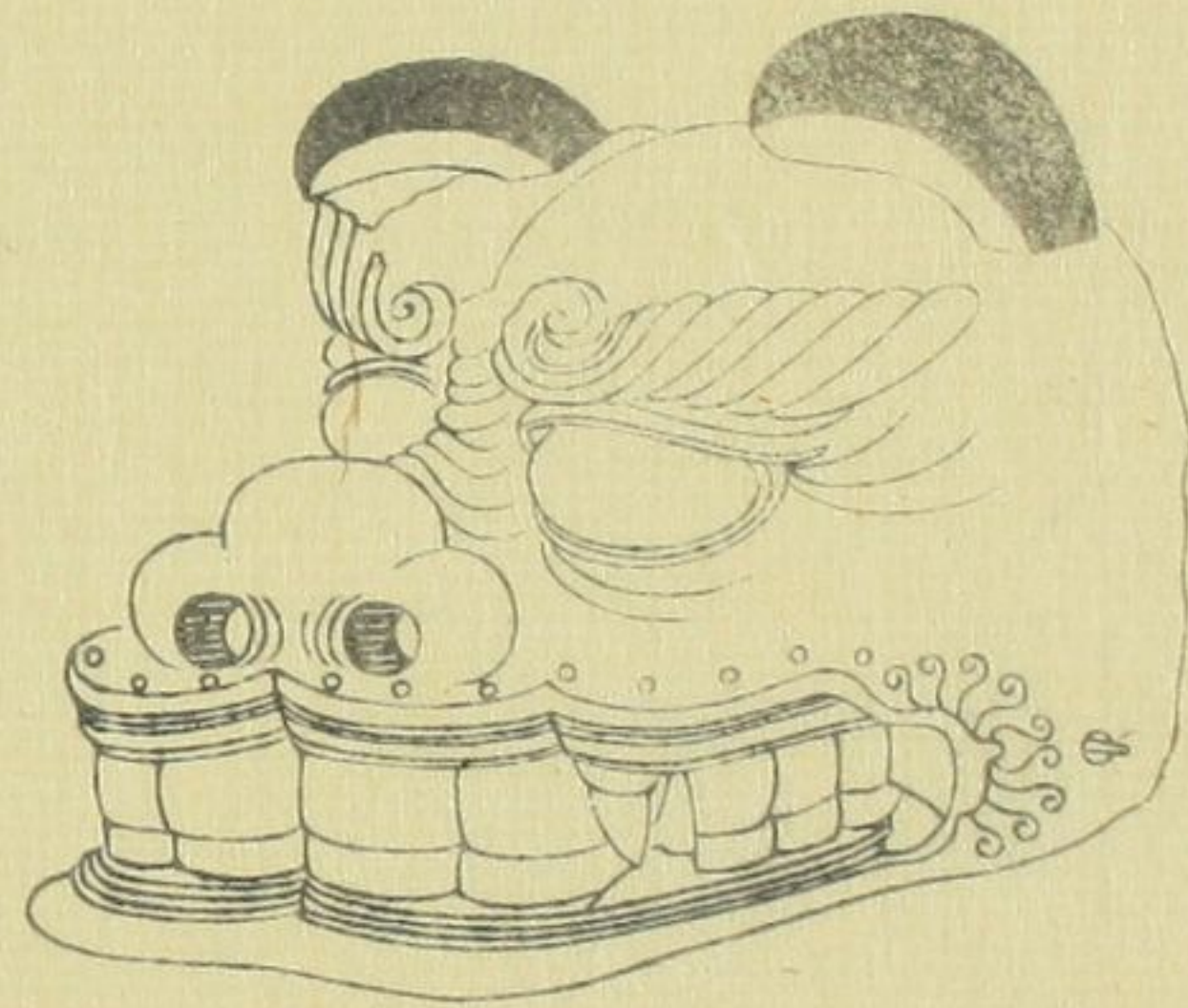


木目の假面



東書

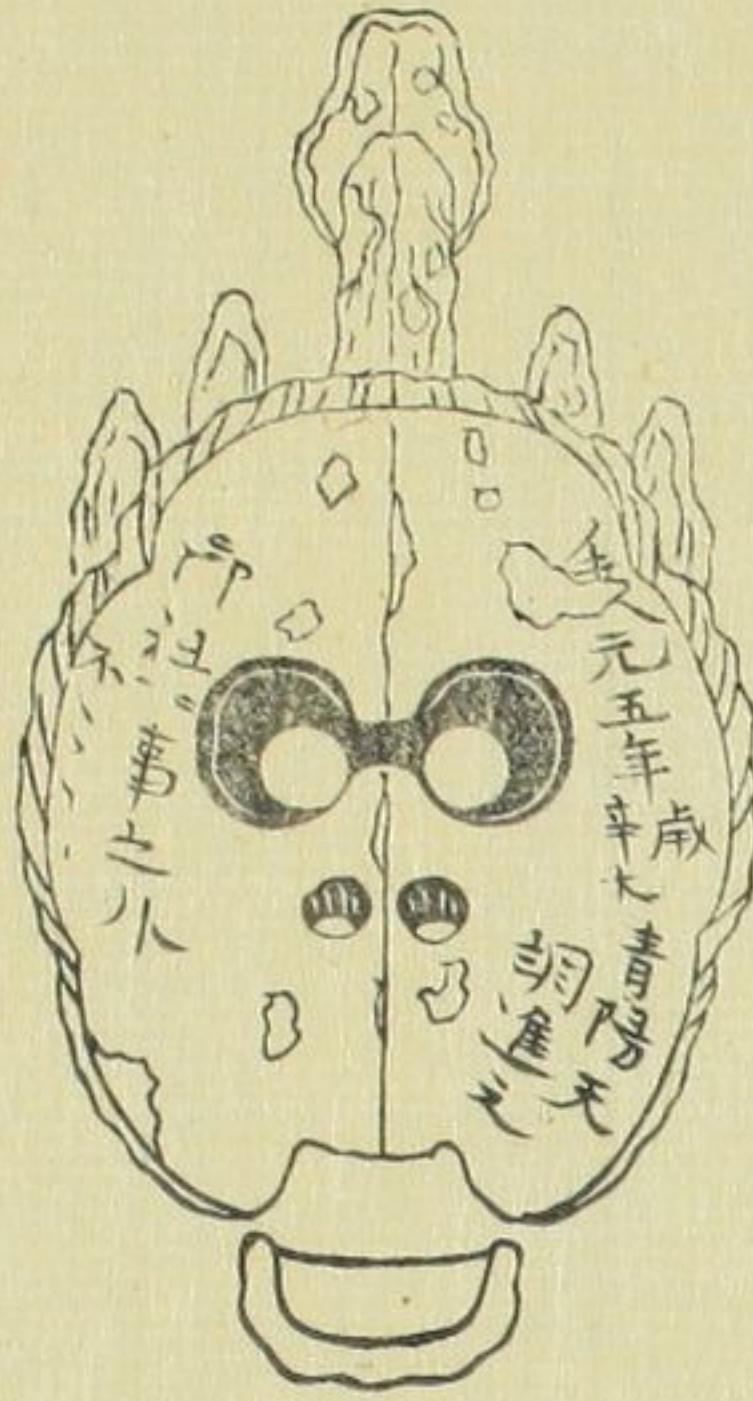
額主一宮住人藤原朝臣
四郎右衛門尉清則
作者神官坂上宗則
画圖之師源朝臣長氏
于時文明三年
九月廿四日



一本とてつて造違ふる本理
おのづから鬼形の面相とせり
頗一奇品と云ふべし

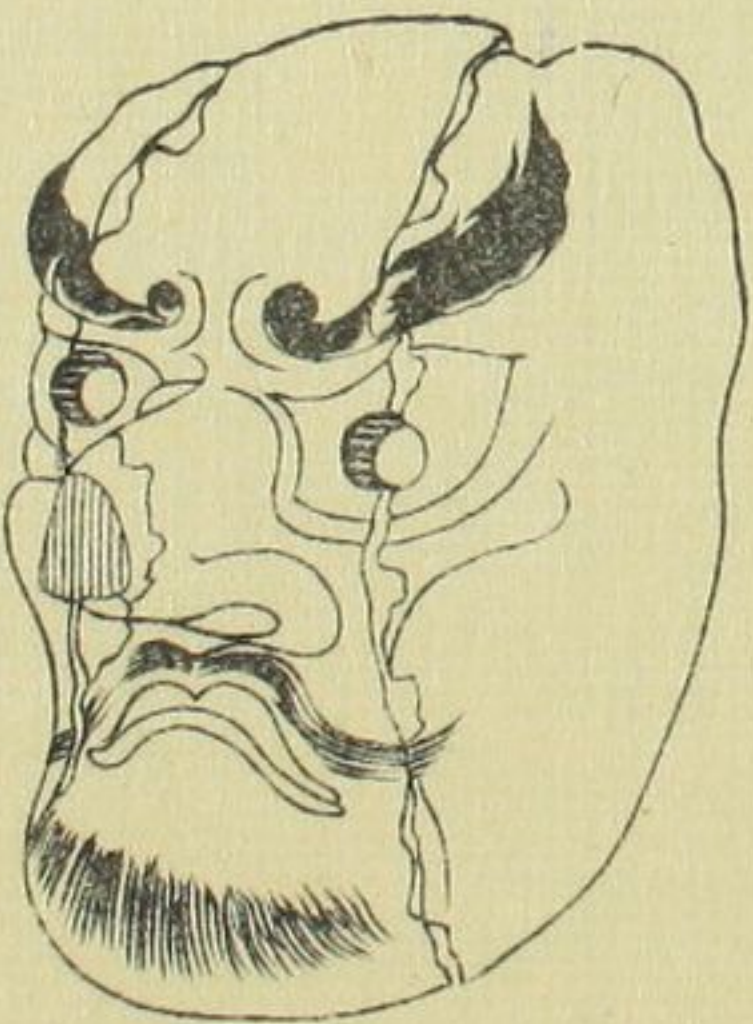
陵王

兼書
兼元五年歲辛未青陽天調進之
御社神事之外不可出他所



貴徳

兼元五年



童舞

兼元五年



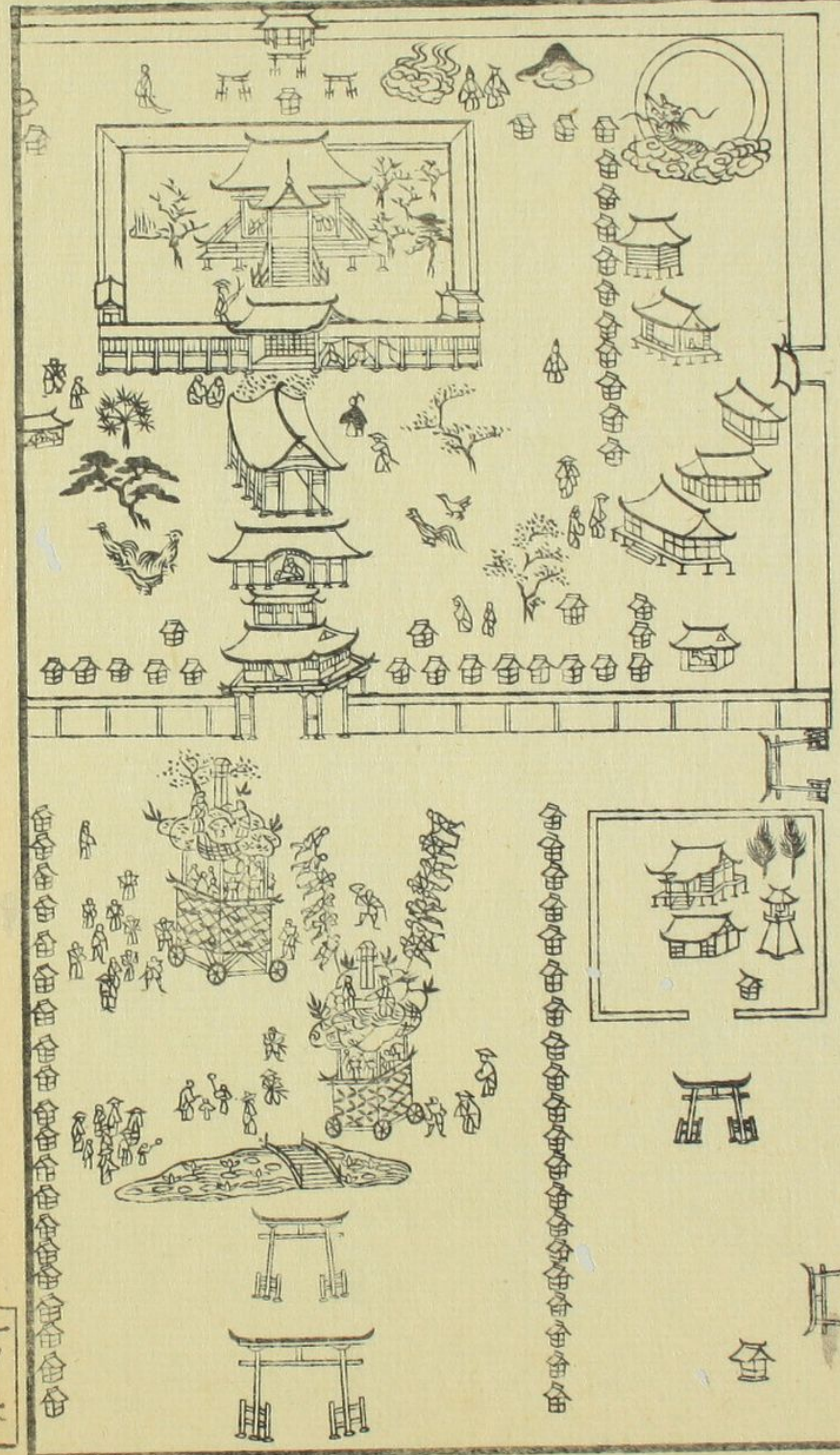
散手



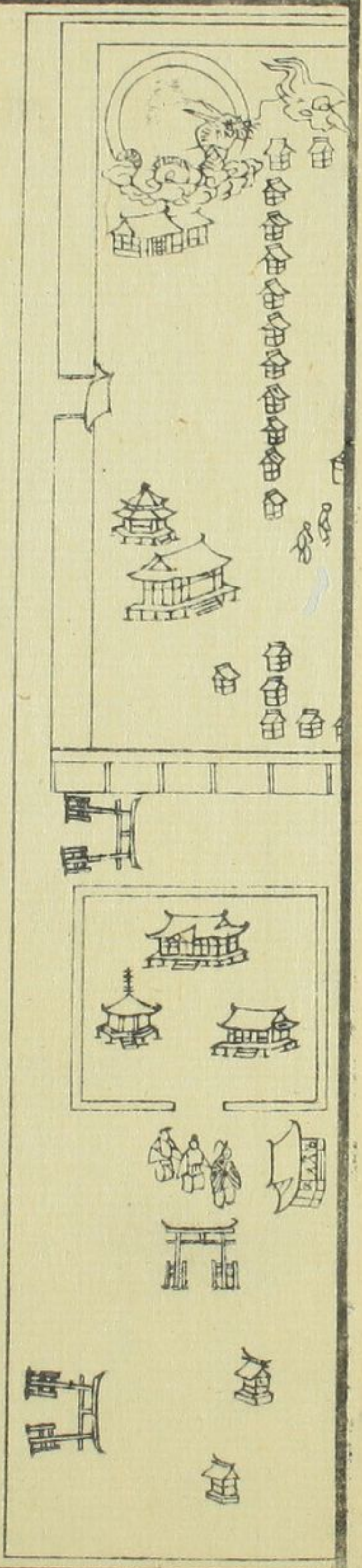
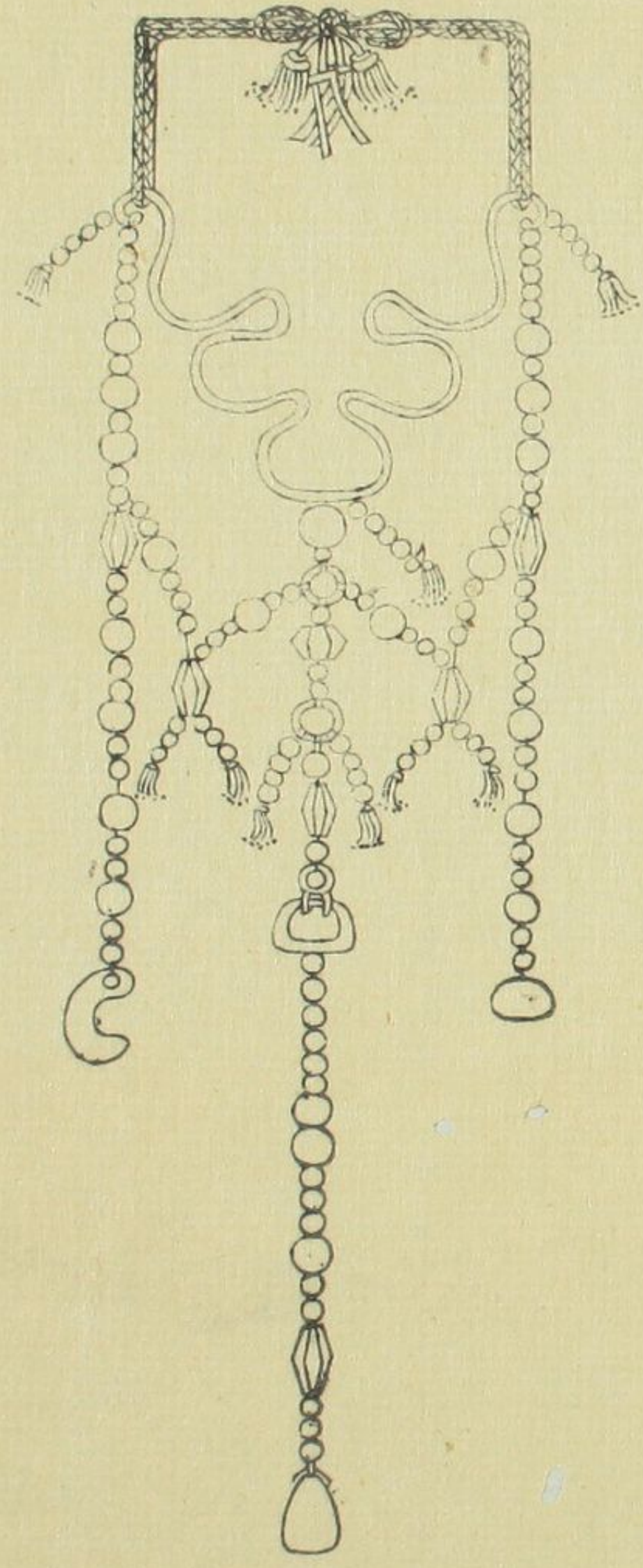
高唐の舞の姿ははなはた中世の風貌に似たり
希世の也と云ふべし今其一二を圖にして
其の姿を傳へんとす

兼元五年の文書
其の姿を傳へんとす

一宮古圖



五百箇御統



延暦三年三本
杉 二本ハ括て弘仁年七本松 一本ハ括て今 二股竹 陸内ハ

神寶 五百箇御統 和琴 古鈴 建曆元年真清田ノ彫付リ 獅子頭 銘支

鐵鳥居 本社の内陣ハ高一尺五寸其ノ上ニ御神鏡ニ付テ

銅盤 天正二年甲戌八月十八日ノ汲アリ 神鏡數十面 東國俊東國光表國次

太刀 二尺八寸三條 短刀數口 正宗寺ノ汲アリ

假面二十三種 出他所兼元五年歲次辛未青陽天調進之入リ

古縁起二卷 正徹ノ筆ヲアリテ心書 燈臺銘 集古十種ハ出

の制札ととも 神君國君の御制札數多アリ

社領 御朱印三百三十三石六斗餘是々及ビ是ハ年間ノ 淨事附々今ノ社領アリ

古澄狀等數通アリテ隣村所具ナク存存す

例祭 御鏡餅御饌調進 正月 白馬神事 同七日供御調進神馬と

調進 四日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

祈年祭 二月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

桃花會 同三日供御在桃花調進車樂二輛と錦袋とアリ

供御調進 三月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

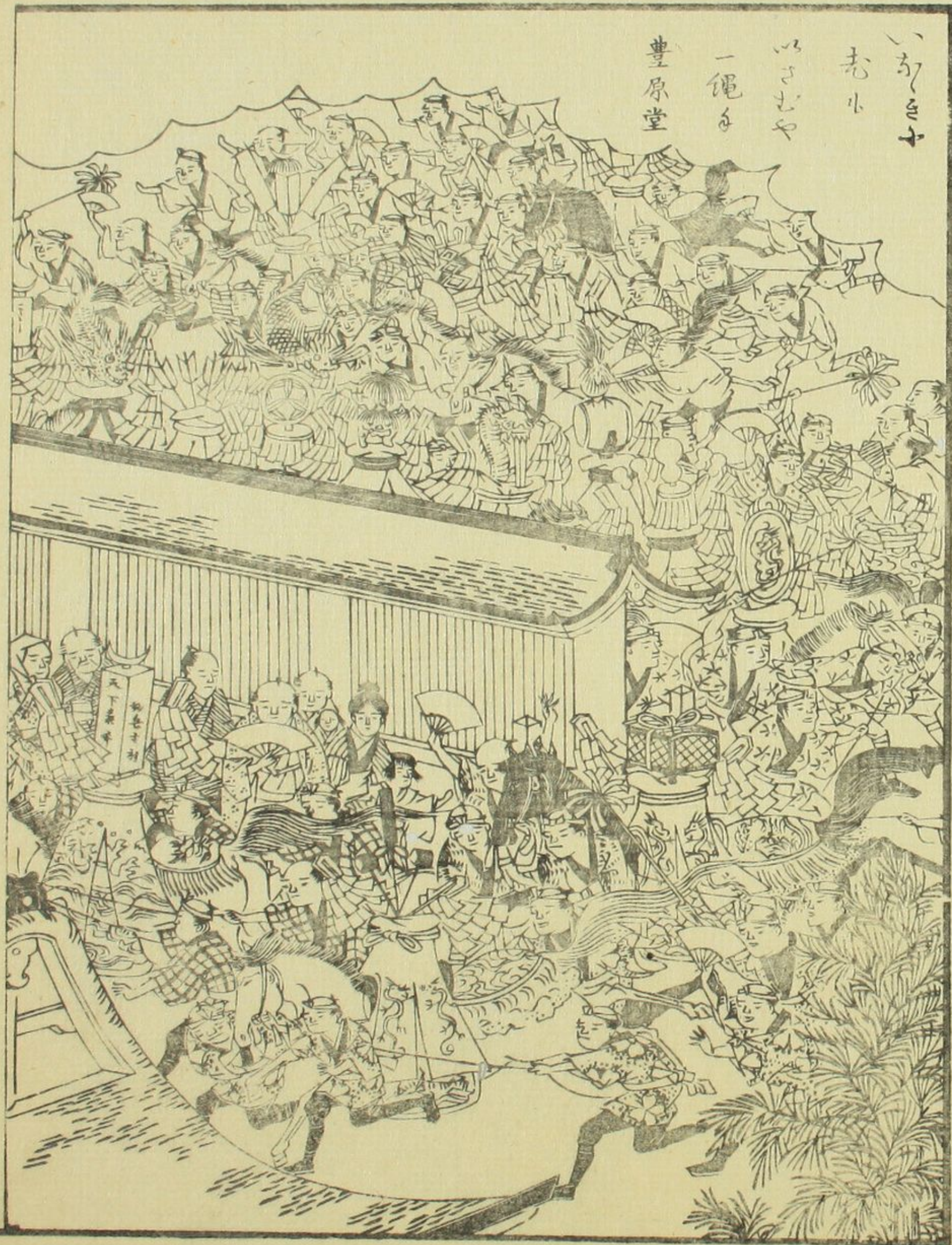
御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭

御饌調進 四月 朔日 祈年祭 二月 朔日 祈年祭



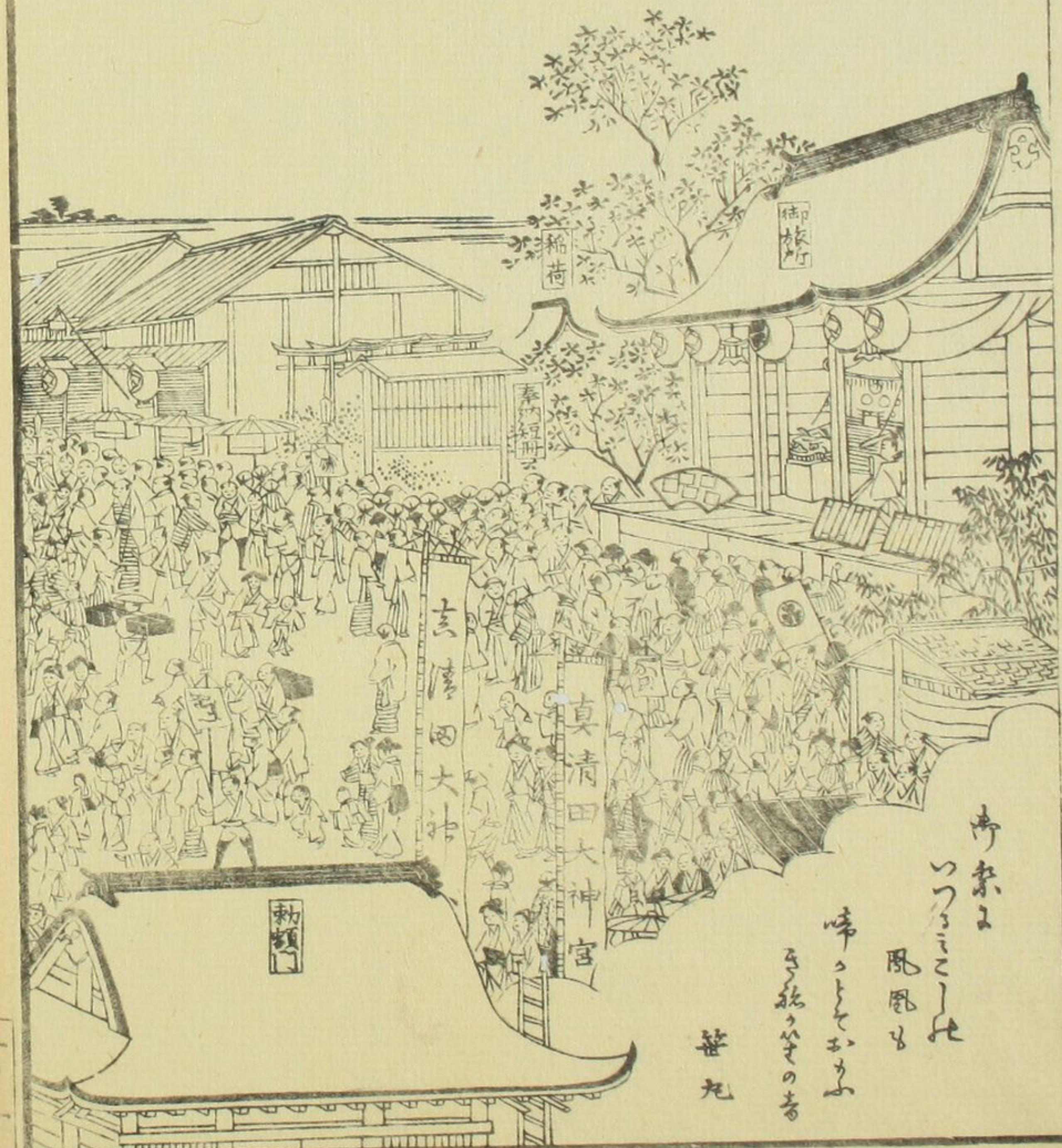
一之宮
馬之頭
豊原堂
一繩子
以こむや
志小



一之宮
馬之頭
くらや
馬の寄
其河
其河

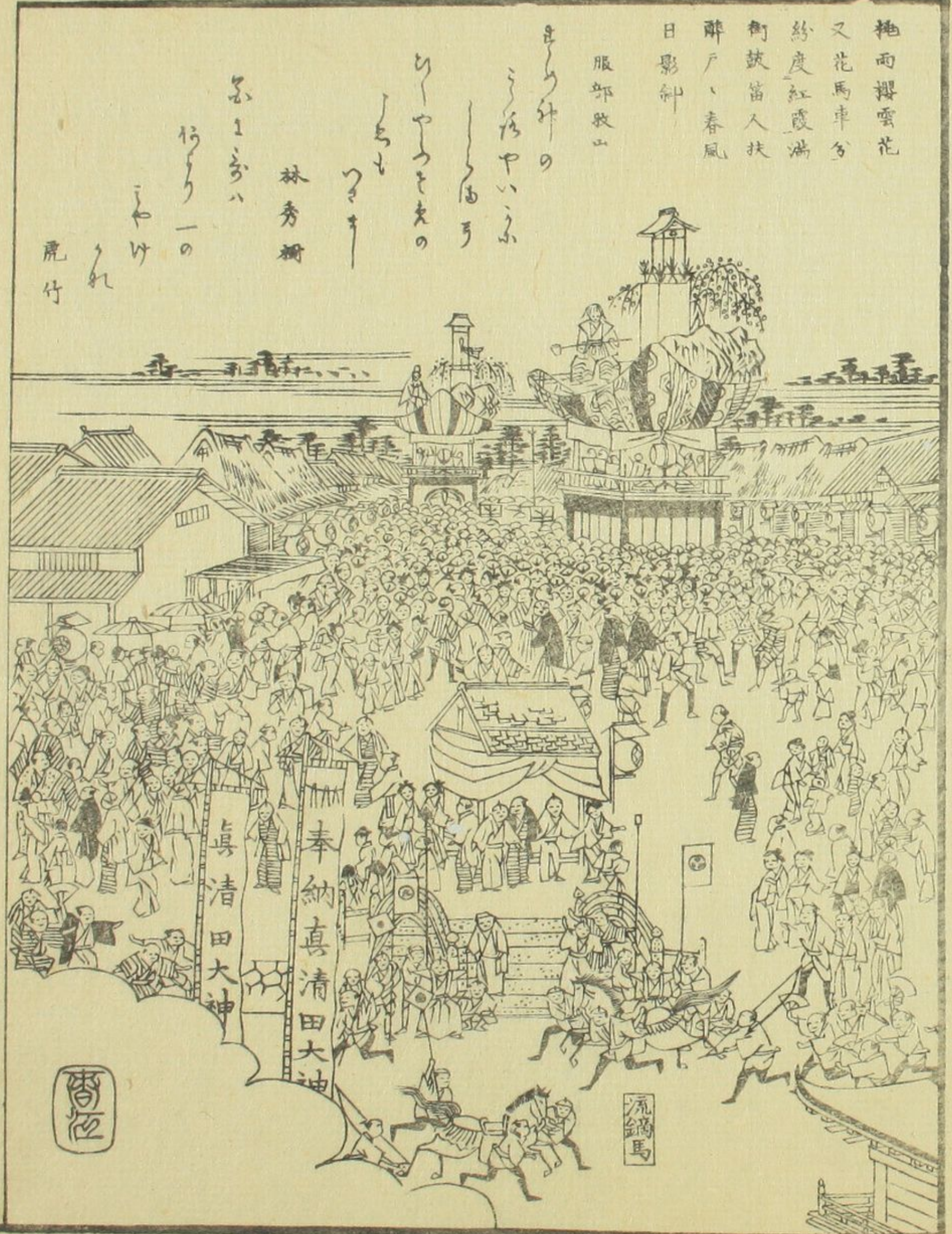
桃花會

結構行宮十
 二撰神典降
 自五雲瑞千
 秋雅頌標明
 德園國人民
 拜三鑿斜壓
 曉階旗影轉
 別修春祭馬
 聲關彩毫新
 有
 君王賜仰看
 禮文勝舊觀
 森正有



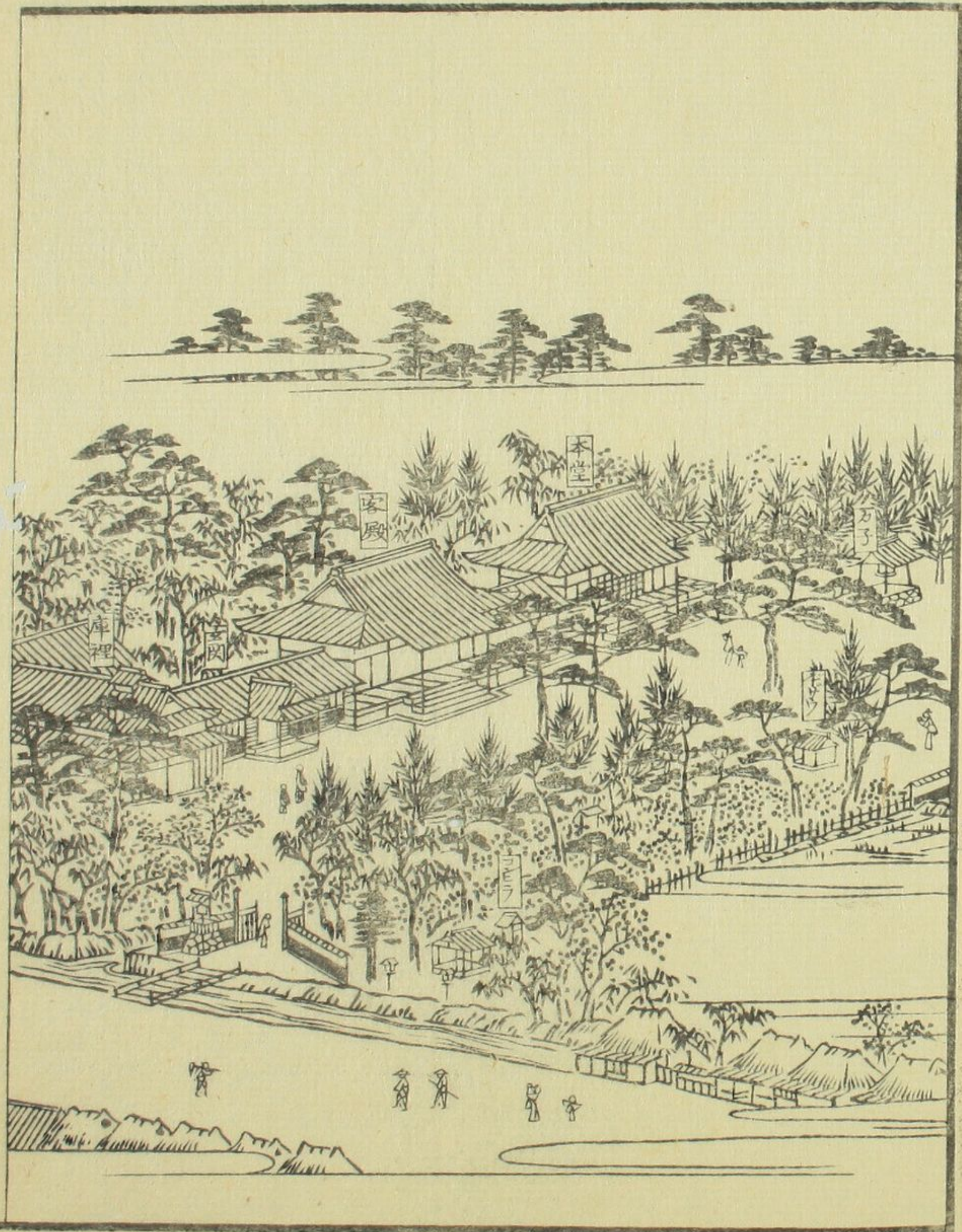
舟来
 つつこ
 風風も
 啼
 華丸

桃雨櫻雲花
 又花馬車分
 紛度紅霞滿
 街鼓笛入扶
 醉戸、春風
 日影斜

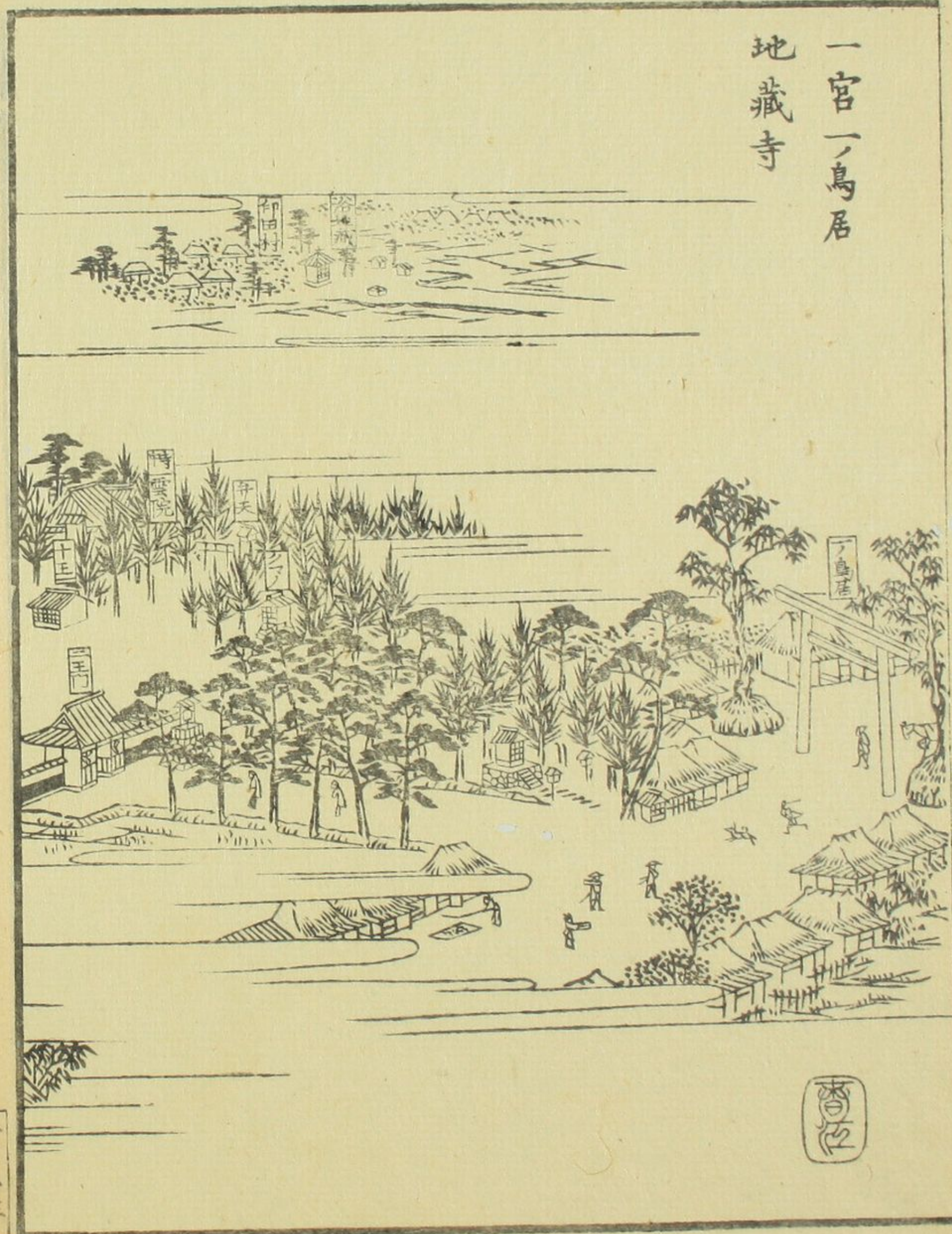


服部牧
 林秀
 虎竹

唐



一宮一鳥居
地藏寺



香印

別宮

大神神社 花祇天王社 濱神明社 社の東に流るる昔ハハ瀧大ニテ湖満

大樹 神戶神明社 子守社 神主家及び社中の中 大國靈社 御供田社 更

屋敷社 齋宮社 貴船社 三石社 熊野社 山子社 淺間社 牛野社

東小島社 西小島社 印田社 白山社 四峯社 西郷寺社 境内の連 松尾

社 八王子社 八百萬社 天王社 共小田村の中

宝部山 竜花院 地藏寺 同村のあり 真言宗 山城國龍崎郡思院末 古火災小のり

薩の開基として 龜ヶ谷 古刹 中古火災小のり

廢 弘長年中 空圓法師 無住國師道跡考云云 師の字と一四 房と号あり 時本州万徳寺中興常山 上人も母姓梶原氏ありて相州の人 其上足空圓上人ハ俗門の甥ありて本州一宮地藏寺の 開山あり 中興常山もは書 三人同氏族ありて同く密教小釋ありて三人時ハ相會して清徒 ありて世人も尾州の三四

寺傳あり ○本尊 地藏菩薩の像 行基の作也

福壽院 真言宗南村地蔵も末文永年中空圓法師の開基として 須賀崎山勝福寺と号し 本尊ハ十一面觀音の像と安置ありハ十坊ありて 永祿天正の以の兵賊地震ホニ 衰廢して一宇のしあり 冥室涅槃像非典司の筆弘法大師像自画文殊菩薩金剛華 大塚権ち夫の館等あり 康富記云嘉吉二年九月廿日丁丑晴東岩藏之窓花院坊主寺月

上人英等日房等今日令下向尾張國一宮給末廿四日勝福寺塔供養也為導師 等月上人披請招云彼寺供養之表白英諷誦事依所望康富草進之と云

柳星山常念寺 同村のあり 浄土宗 西山派 前飛保村曼陀羅寺末 後小松帝の明德元庚午年の

草創開山の空選名運上人より空選あり 時真清田大神小詣で

一百日通夜して浄土の教と弘通とせし地と授けんと祈願ありけ

小百自滿ざる 光明神若たより 汝弘法真隆の志ありて我小其

地と求る事殊勝なり 則是より 赤山にありて 冥地あり 行て弘教

すべし 告る人時の天より 星三昧なり たりて 東に

うり 以空選感喜の涙頻りて 東北の方へ 舟の小山岳中にあり

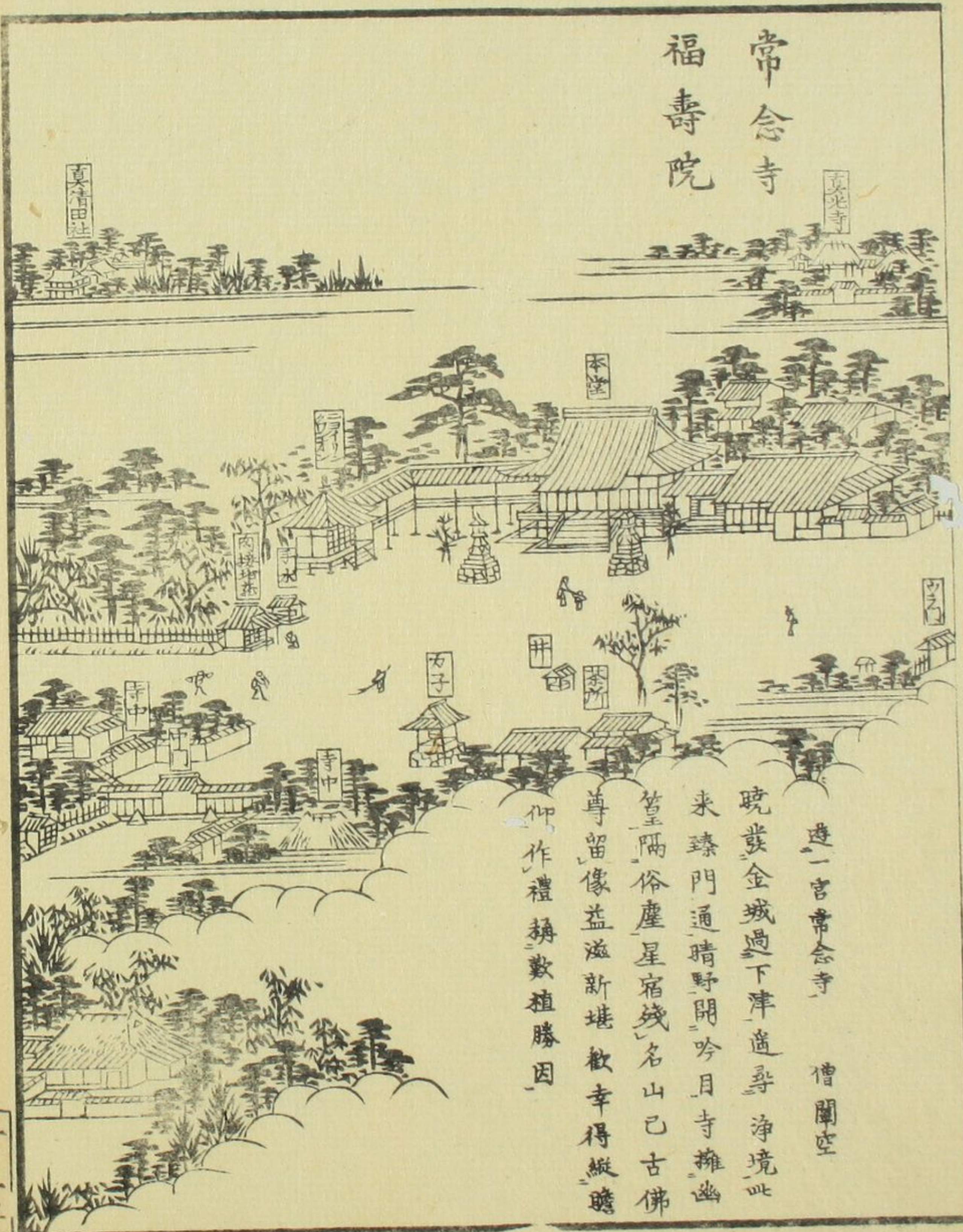
柳の冥木の三尊の弥陀 龍向したる 是明神のありたまし所なり

と堂塔と建す 本尊と 累りその 冥瑞とありて 柳星山と号し

かくて 星霜と経て 弘長年中 今地あり

專阿が西方四十八願 西方四十八願所す 三番 札所あり 委しハ善奉 本堂 本尊阿彌陀三尊 佛教大坊作し ありて 善奉の像 所縁起あり 觀音堂 佛教大坊作し ありて 善奉の像 所縁起あり 撞樓 近く正徳年中の淺うれど 寺室 大永三年癸巳八月書寫の古縁起西山國所ま の浄土曼陀羅 國祖君御筆菊菴の二字

帝念寺
福壽院



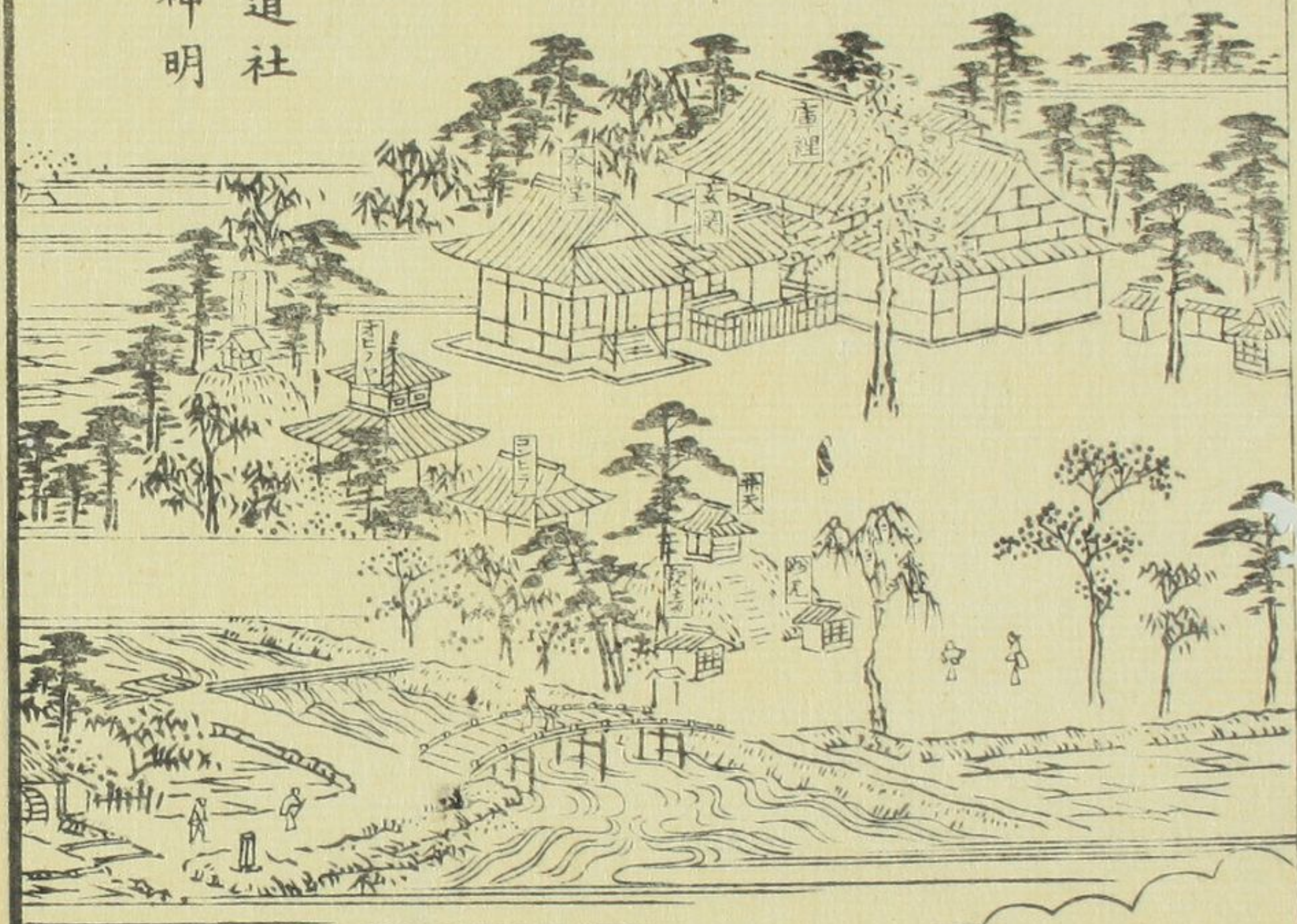
遊一宮帝念寺 僧闍空
 曉發金城過下津遙尋淨境此
 來臻門通晴野開吟月寺擁幽
 篁隔俗塵星宿殘名山已古佛
 尊留像益滋新堪歡幸得縱瞻
 仰作禮稱數植勝因

御旗竿藪
御殿跡

つら右ハトと
 かき松は具外の
 長くあふふ事
 佐分清因

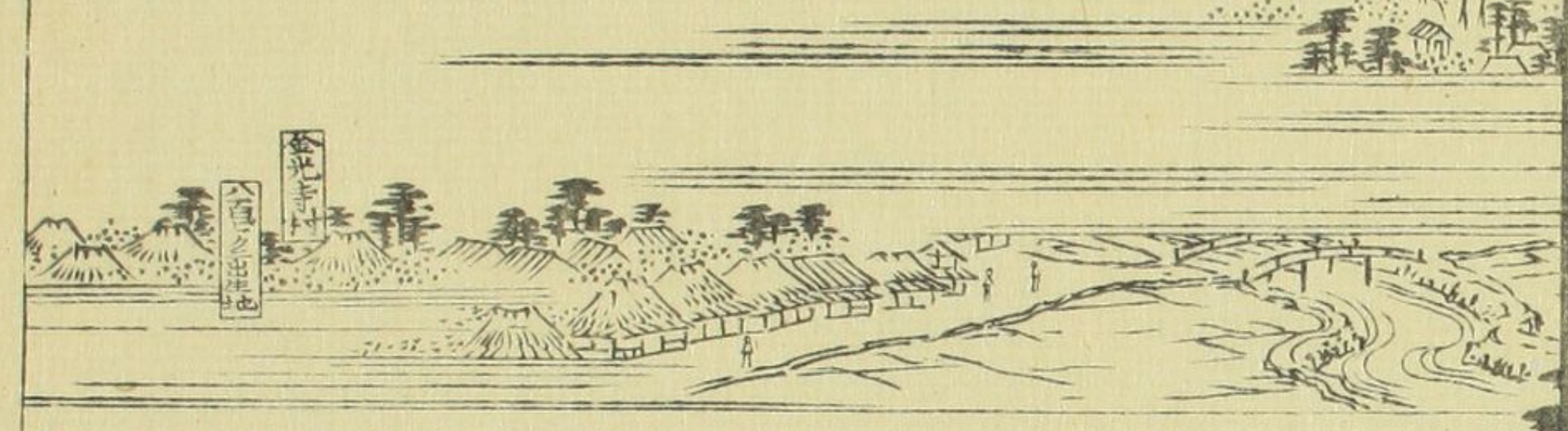


天道社
瀨神明

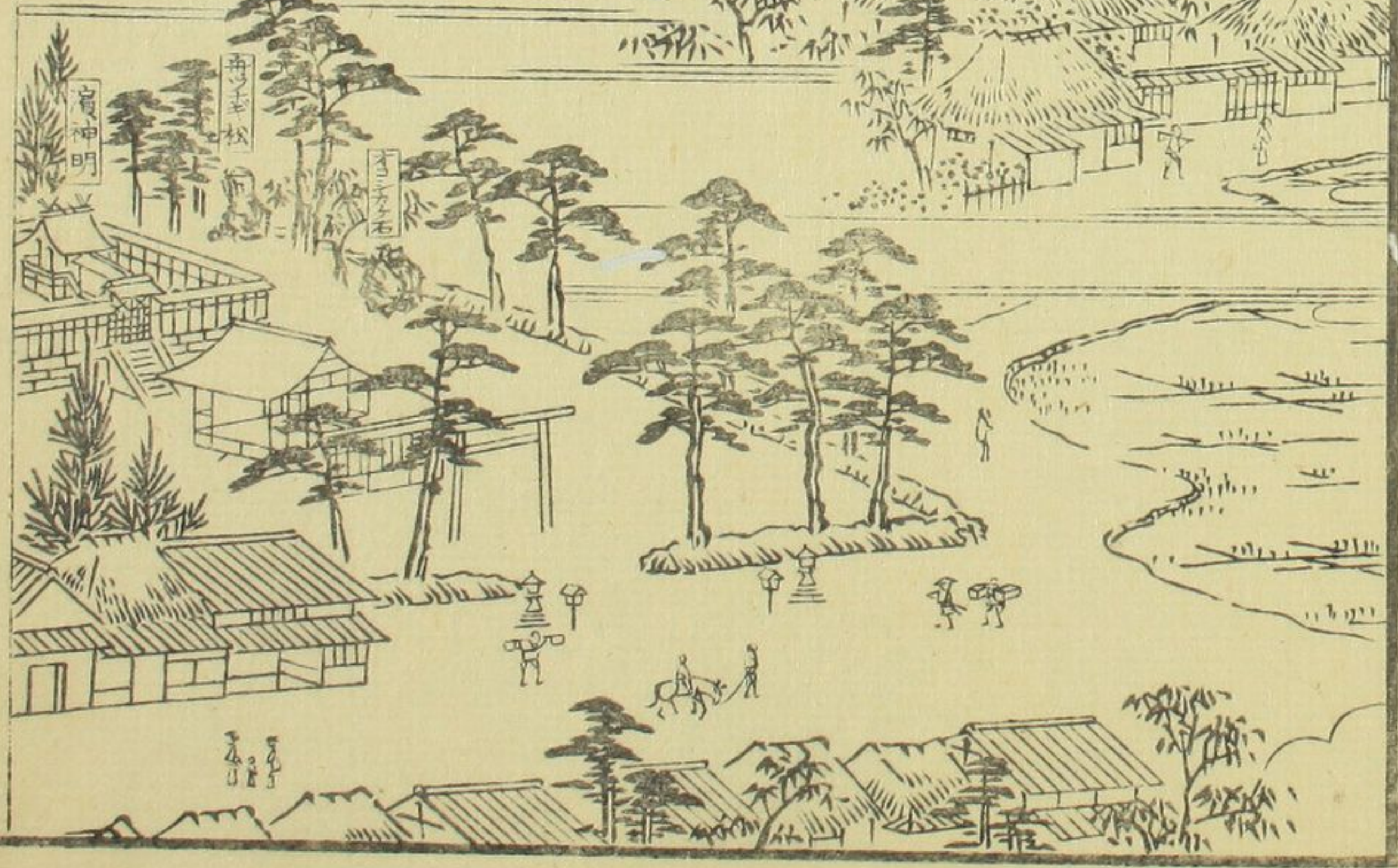


松下長隆
 ちんちんきんちん
 ひんちんきんちん
 ひんちんきんちん
 車石の
 羽洲
 旅と通る
 落し
 香印

候神有...
 池の...
 十九年...
 林...
 同...
 父...
 池...
 信...
 村...
 其...
 示...



菅も
 神の
 曉忠





天待

天道社
日待の圖

前権中絶言持聖師

わ

ひりいり

今も世を

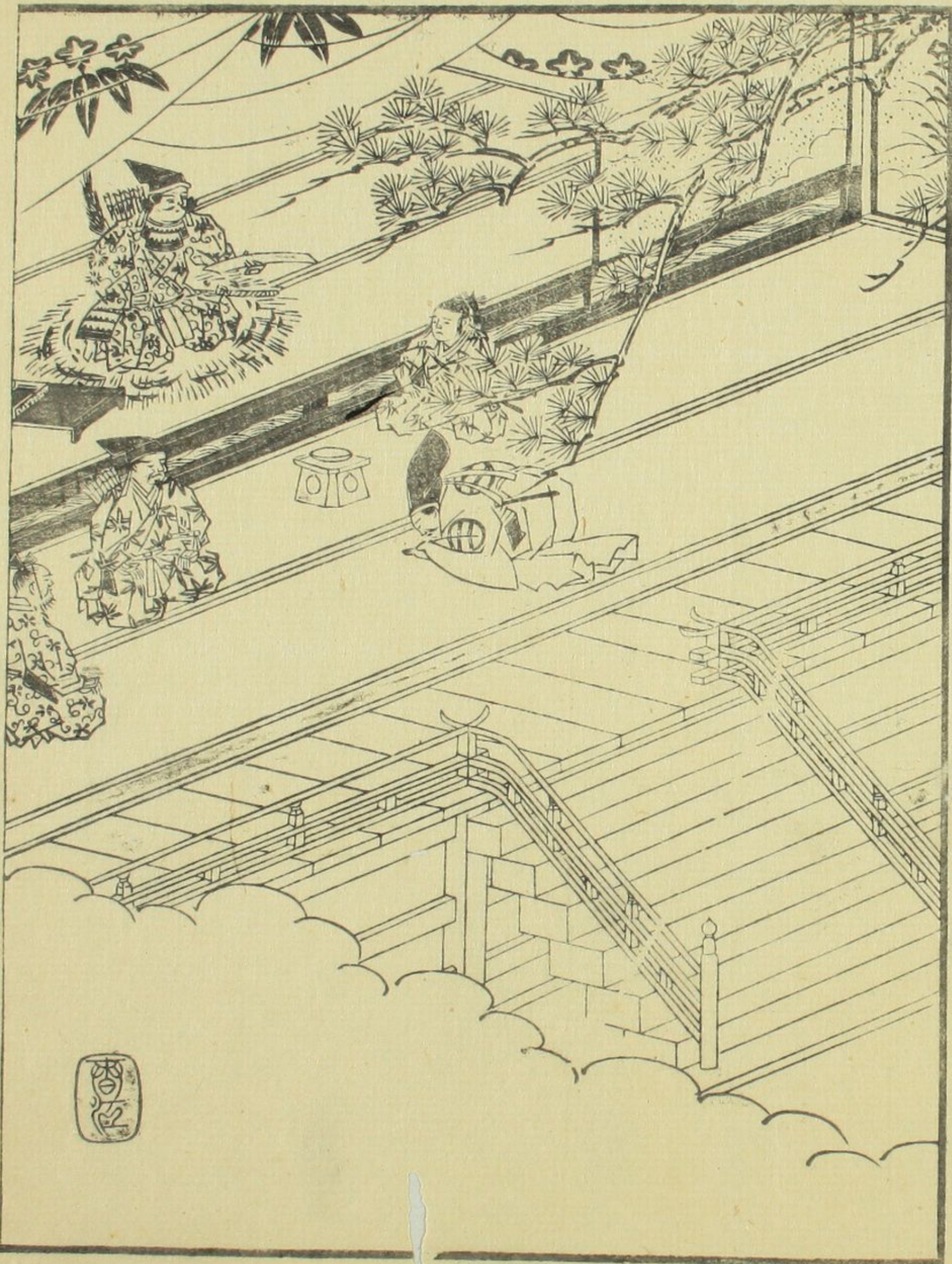
ら

て

天は

日の光





香



義教公
 鶉飼頼勝が別業
 詠哥の圖

志しし御郡村もはあり近きれはむらしの地名も
ありし号ありし志ししむらして後考とすなり

西方寺 同村のあり一向宗東派 尚寺も御郡七門徒のしらりて親聖智
人の僧玄了の開基し文明年中僧正誓中興すり寺室に

蓮如上人真筆の名号一幅ありて天文五年火災小焼失し其傍小

わつりて流の火小とらけり小僧佛像のわつりて今に寺に蔵して

宝物し御郡村の流佛と稱し其傍ありしりて毎年三月廿五日には

流仏と開扉して諸人小拜せしむるも亦も流源小あり

正念寺 新安賀野田にあり一向宗御郡村を末り勢州を信に
ありしと天文九年中岳郡林野村にあり同土年御郡小易地せり

野府古城 野府村のあり野村ハ神鳳抄に笑生御厨と見し又古書に笑生庄と見し
舊地として信長公の才儀田九郎信治尾州野夫城主と儀田軍代尾陽雜記等小
あると元龜元年九月十九日信治近江の坂本少て戦死のち廢城と

御裳天神社 板倉村のあり本國帳小從三位御裳天神とあり古社とれど今も微くしり
小社とあり神鳳抄小尾張國御母板倉御厨とあり旧地とありゆゑ寛徳二乙
酉年正月上旬神明社と建せしむるが神明宮なりて大社とあり村の生主神とす

義教公詠哥松 毛受村のあり今も松あり永享年中義教公富士御覽の湯路所の村同頼勝が館へ
ありしといひ代夫より頼勝量儀川まで送るせしむる瀧太刀等とあり二ツ引鞆の御紋とありしとす

光明山金剛寺 同村にあり淨土宗永福院末永福年中浅井玄菟元親頼勝介家照建立して
寺田若千と寄附を家照の父毛受在左衛門尉勝明の志に依りて移回氏にりて代名
小ありて毛受と改むる西に隣り移回家の遺地として三五七畝の地を法とせしむる
頼朝公の遺徳に依りて武功の家ありしと後考を公に存せり又天文年中信長公本願寺と合戦の時兵左衛門勝能父
子頭如教如小時方せしむる友上人より感状及び木仏と授けしと又代りて拜湯允許の家とありしと今もその
木葉公に片木一巻起慈承寺の本堂の材に格別家多し御府及び加賀前女盛土伏等には本住して遷移せり
為村に其社友の家多し今法眼玉山毛女良三といふ其十七の娘とて如月寺と号し小細工とてこの彫刻物と
國君に於て拜湯とせしむる其名子小とせしむるも系譜及び足利家の感状秀吉公の台翰等を傳未りて中
あり 亮諦院君より賜ひし小槌ありて同國府官大已貴命の神靈ありとて清高平念の發あり古難と云ふ也

浅井田宮丸城跡

浅井家の一族は井田信忠とありて築き其子朝八命其子男田宮丸
城とありて同田長つちと津川玄妻と田宮丸とを信雄公の孫とすりて中
計畧と行はれれば信雄公とてりて謀と心將天正十二年この三長と勢利
重の城中に居て後には三月三日に切害せしむる田宮丸の母ハ毛利伊豫守の女とれ
伊豫守のありしと其子孫連流とていし所小石屋と

就馬洞山國照寺

同村のあり日蓮宗 寺名 妙顯寺末 寺名 妙顯寺末 寺名 妙顯寺末
庚寅年当地一易地せり靈宝の日蓮大士金銅の像ハ世小たがひ

かこ古像あり形殊小くても背小銘と彫付て寛正六乙酉年

二月十六日親しむる其外古品多し中に磨ありて銘小曰藤嶋

二月十六日親しむる其外古品多し中に磨ありて銘小曰藤嶋

乞受村よりわりの橋に
 名古を三の丸に汗殿と
 う屋を方々のまやの待
 樹とよ一茶業一依古
 人との法まてあまの
 風流の妙業をり

玉屋



頼朝王朗豊後集
 移川の橋

ろりり

折れ

士朗



賢林寺勸進僧公明天福二年甲午二月十五日と云々
南村七葉
山崎宗寺

光孝山蓮照寺成等山心證寺も同家の寺院也其まて十月十日の命也
小の村の事多し法も人んせぬ事多し

孝貞女三輪の傳
同村の旧家名も多し其の傳も五葉の母也切年より父(孝
貞)の傳も十七年の時より安んじたりと云々

三輪七葉の伝も子も多し其の傳も五葉の母也切年より父(孝
貞)の傳も十七年の時より安んじたりと云々
孝貞女三輪の傳
同村の旧家名も多し其の傳も五葉の母也切年より父(孝
貞)の傳も十七年の時より安んじたりと云々
孝貞女三輪の傳
同村の旧家名も多し其の傳も五葉の母也切年より父(孝
貞)の傳も十七年の時より安んじたりと云々

宮ノ地花池村 和名抄中島郡美和と云々舊号云々
大神神社 三輪の神のまにまに宮の地と云々

延喜式内にて本國帳より從一位大神名神と云々
祭神 大日和命 天火明命の十世の孫と云々尾張氏同祖の

御神より南ふまの門と云々の所ありと云々大和の三輪とい列神あり

蓮花池跡 同村あり今に記して田と云々此の蓮の花と云々
小契田大井と云々其後絶たれども花他と云々村名の事と云々

と徳田名と云々の所あり
尾塚と云々の所あり大徳と云々の所あり

長嶋山妙興報恩禪寺 妙興寺村あり
貞治四年建立成統一 後光嚴帝勅願の道場と云々久我内

大臣右大将通相公寺境三十三町六段二百八十歩と寄附と云々

圓光大照禪師宗真滅宗和尚の建立と云々
師年四十二歳の時考妣竟阿勝
觀乳哺幼弟の恩と報ぜん

大應国師と開創の始祖と云々
と号し圓通大應国師と 勅謚と後念定と云々

嵯峨天皇の御子左大臣源融公の裔孫中島藏人
息より延喜三年誕生と云々
聰明秀才比類なく七葉

の所より親善堂に於て羣兒と共に操下と現る人ありと云々

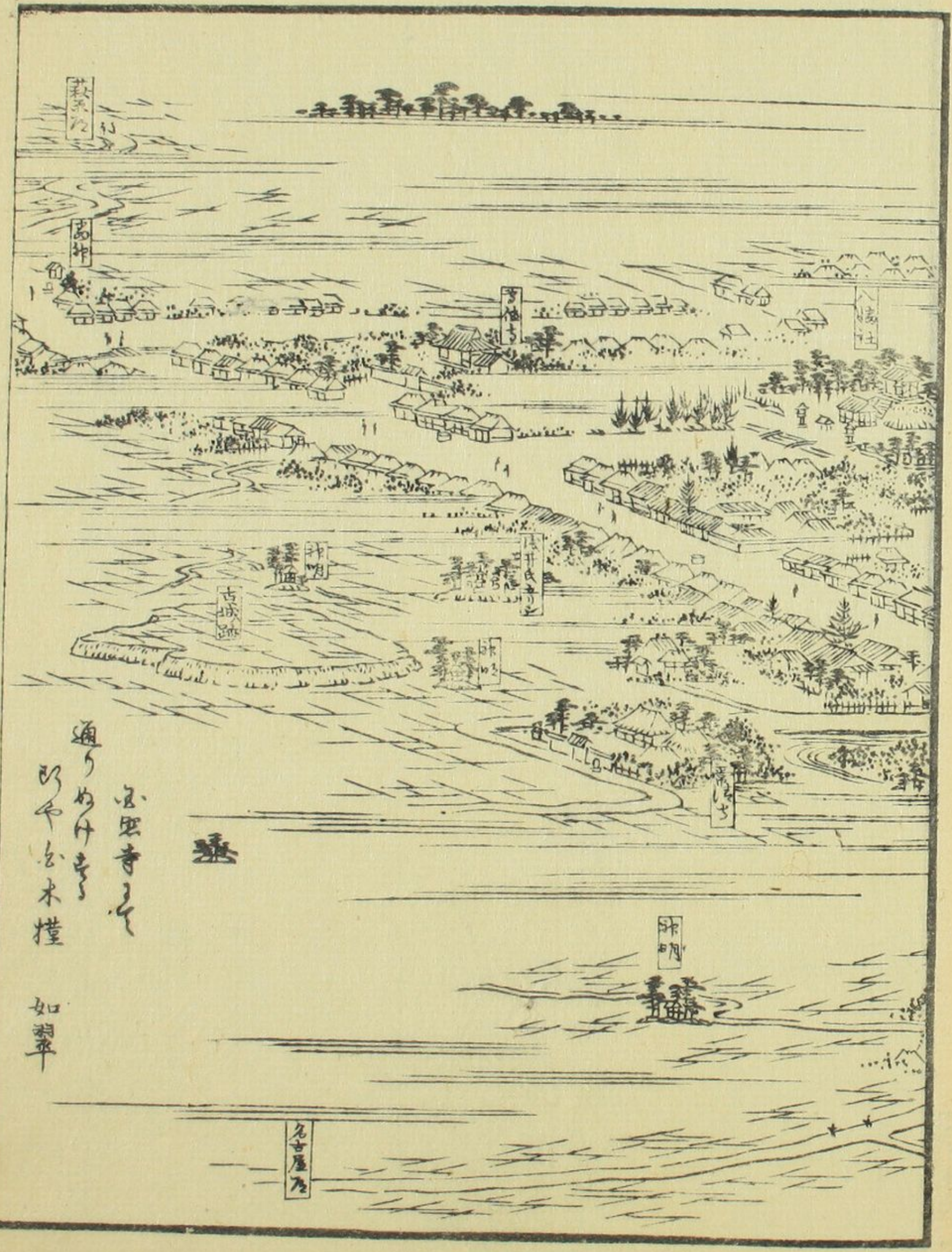
つれづれ我が身を奉りてと云々の所あり
人との志と察し柏菴和尚不附して出家ありと云々

の弟子となりけしと云々の所あり
達長と云々の所あり

業と受と云々の所あり

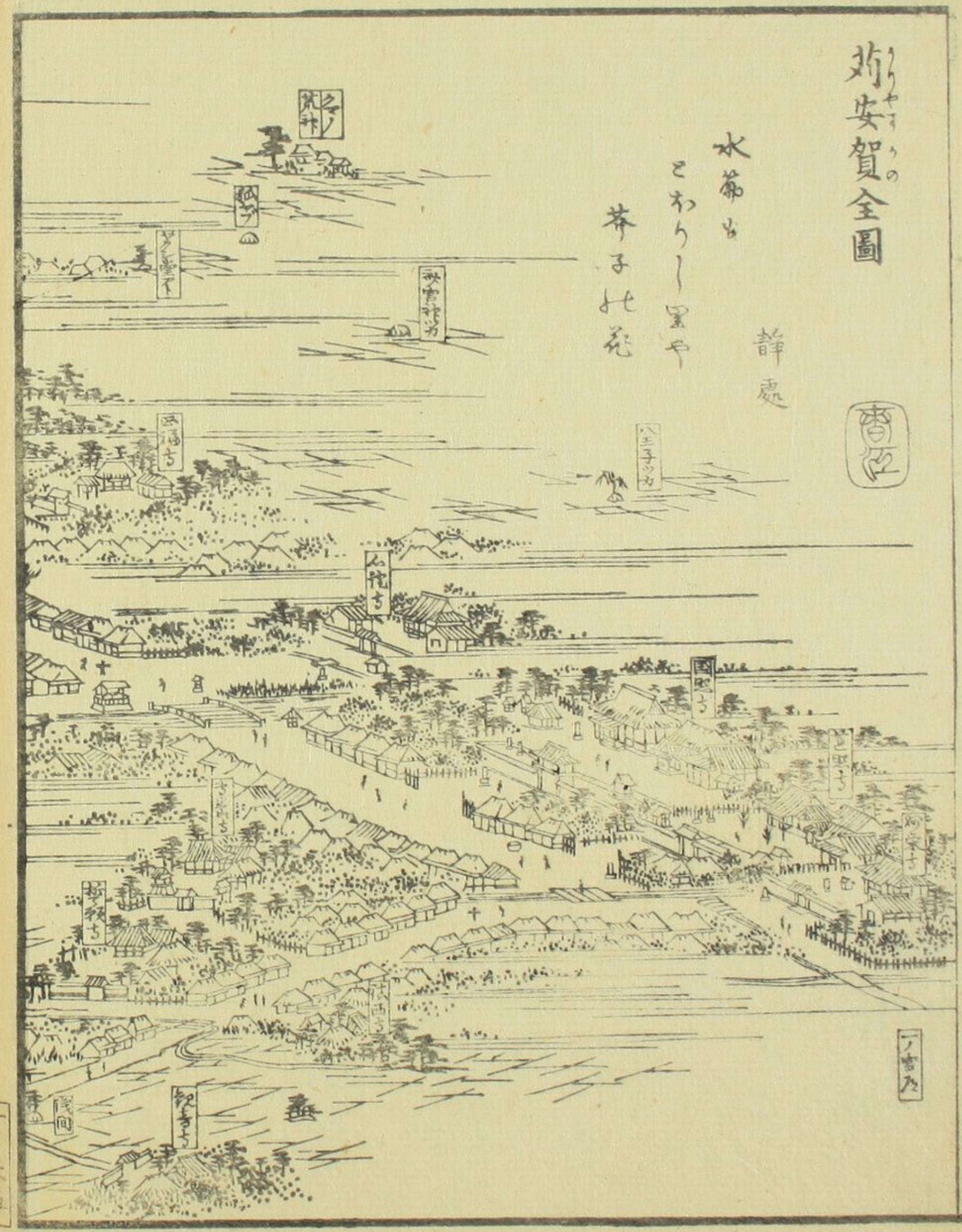
業と受と云々の所あり

業と受と云々の所あり



通
り
の
木
柵
如
翠

名古屋



安賀全圖

水第
こわり一里
静處

芥子花

香

ノ書

妙興寺

蓮島話洛

尾之妙興大室

會住持延慶甫

正月廿七日

萬里居士

梅亭文藏

豐草原鄉阿

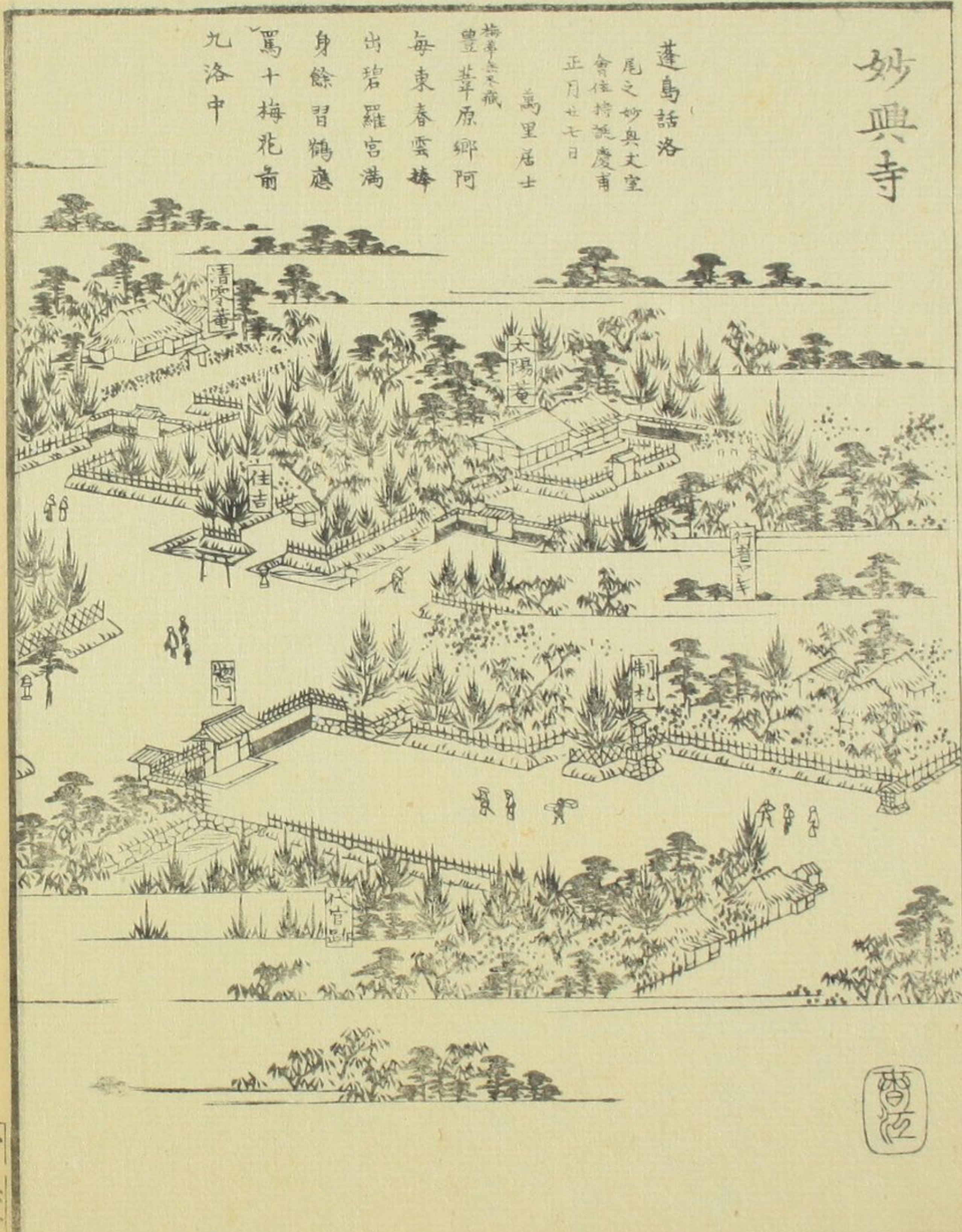
每東春雲捧

出碧羅宮滿

身餘習鶴應

罵十梅花前

九洛中



香印

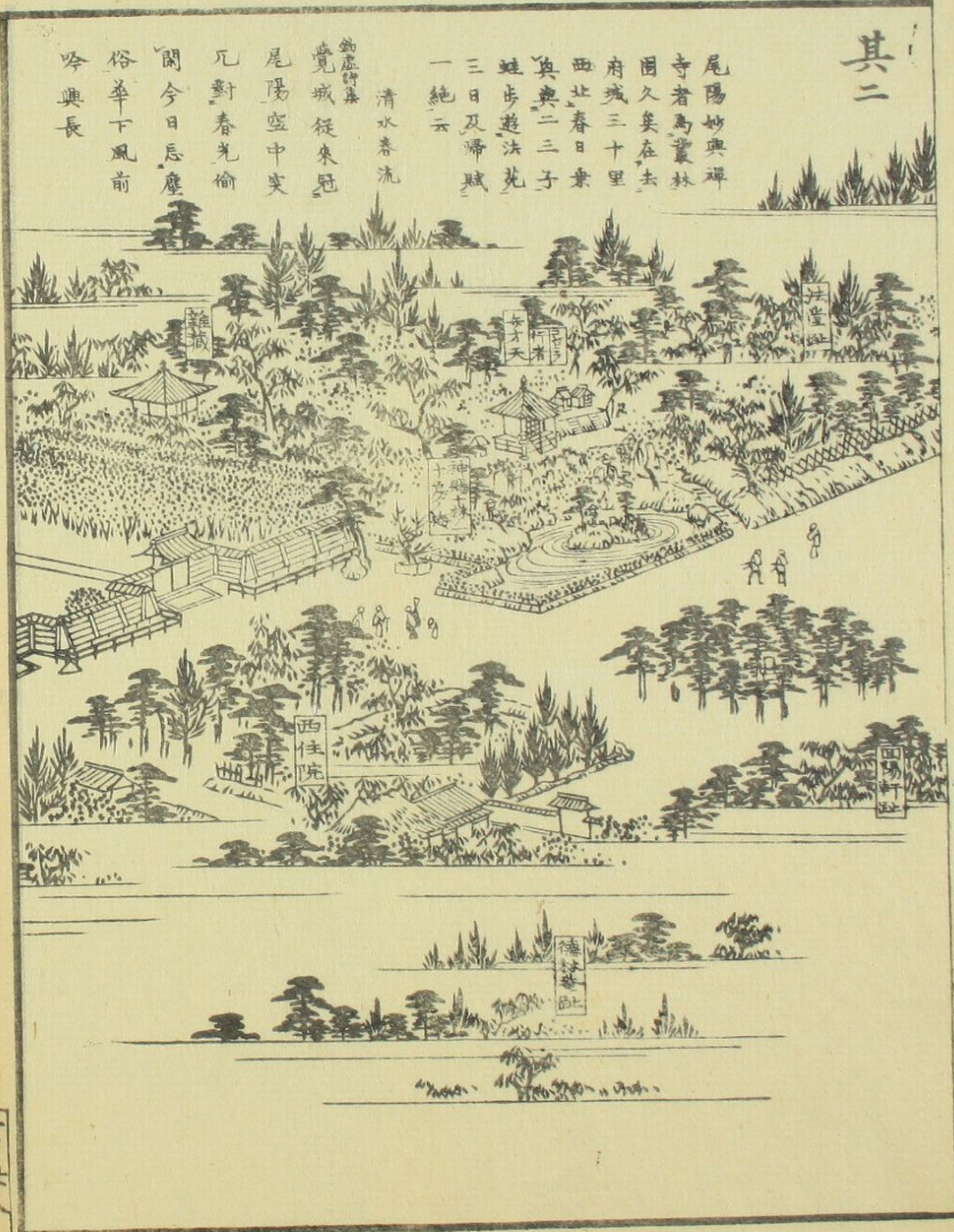


中敘尾州 南化因師
三五秋源獨閉門 白頭吟盡
立黃昏東夷西維一輪月 歛
問平安天不言

山門
教
地璋

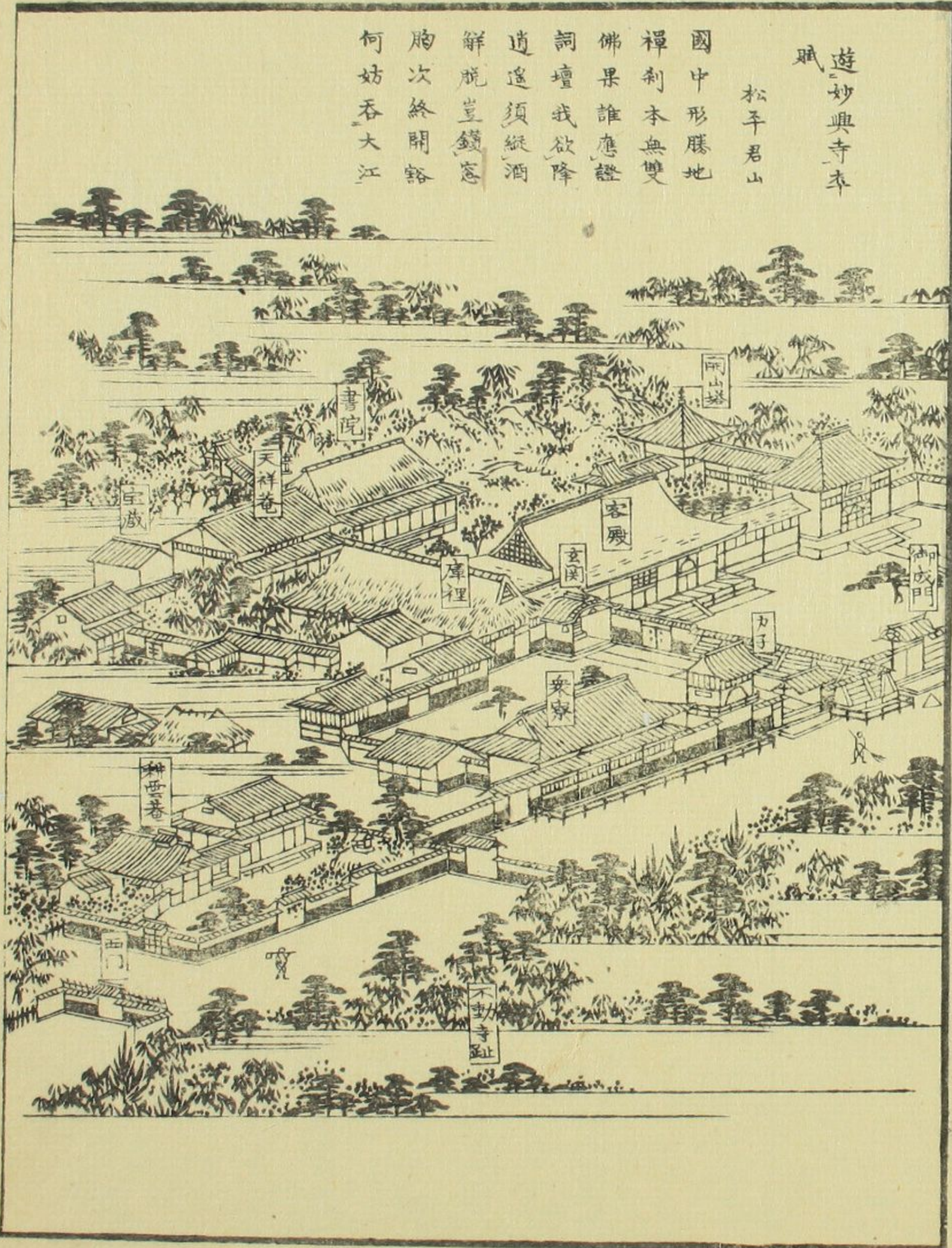
其二

尾陽妙興禪
寺者為叢林
固久矣在去
府城三十里
西北春日乘
輿與二三子
蛙步遊法苑
三日及歸賦
一絕云
清水春流
鏡城徒來冠
尾陽空中笑
兀對春光偷
閑今日忘塵
俗華下風前
吟興長



遊妙興寺奉賦

松平君山
國中形勝地
禪刹本無雙
佛果誰應證
詞壇我欲降
逍遙須縱酒
解脫豈鎖窓
胸次終開豁
何妨吞大江



宣御教書御朱印御黒印諸院文等今に教通とす他也
日又和ニ癸巳年將軍足利尊氏公 勅と奉とて國中無
双禪刹の額と賜ひ永享四年壬子年足利義教公富士御
覽の序尚も帰駕と交らるる半日滞座りて妙興報恩
禪寺の台華と添うりて旧寺領に復し安堵の御教書と
なすはれが權那と稱し公の肖像と書き京都鹿苑寺瑞溪
和尚の没と加へて今小むるまで供養し奉りて又日本名聖國
小も尾州第一勝藍妙興報恩禪寺と名し續羣書類従小
妙興報恩寺記とのせし世にわかれぬ矣國中無双の禪刹なり
○佛殿 南面して覺皇寶殿と号し殿裡に其額とわく本尊釈迦如來服五音寶
文殊と安置次其外堂内小法信大行作の持国天作教大行作の多門天
と安置り妙興報恩禪寺の額ハ普廣院義教將軍の台華なり 應永年中の火
災小堂塔多く燒ゆりて其の遺蹟をみれば再建上棟の棟札ありて應永
二十九年壬寅十月十五日と記すなりお供養は堂の竹田の番匠が作す所とすなり他小
堂の遺蹟をみれば九人の供養所あり堂内は堂の須弥壇欄干の彫刻を結構なりとす
堂の長より短なりは足利の遺蹟なり 開山塔 南面大應國師大照禪師の二
像と安置り又十梅院と号す

焚田大宮の寺塔より跡あり十株の樹今も存すなりとて院号とすなり又此の寺に香
炳とすなり一名額の香がともす月夜に寺の和尚より佛存のり 兼書に永正乙卯
閏二月廿八日小師 客殿 十梅院の西にあつて南面之天祥菴とも号し次明の可菴 書院
宗譜謹志とあり 今之所も其古跡とや芝うりて 衆寮 其跡もや開山在世の以二百餘人の宿坊
とすなり 惣門 外門あり 勅額とあり 勅使門 中門も二の門もなり 山門
寺記に記すなり 勅賜國中無双禪刹とあり 長島山の額とあり 鐘樓 其の
是又仁徳と号し創建より年月とすなり 周も改築し樹礎の跡ありて中
みらるるなりとすなり 鐘樓 其の跡も改築し樹礎の跡ありて中
鐘樓 其の跡も改築し樹礎の跡ありて中
基比丘宗興住持比丘善一と号し因所小天祥菴の鐘もわけて銘ありとすなり
次享徳二稔龍集癸酉孟秋日守塔比丘徳吾誌焉 同所小豆木の被とすなり
て古物なり 警觀音堂 寺堂より足利尊氏公の念持佛あり近き頃 住吉社 辨
財天社 天神社 小堂と建て安置り足利義教公御奉納なり 靈寶 涅槃像
聖一丈八尺横一丈二尺の大福の繪地なり 京都泉涌寺の開山俊祐因師來國より持來
る所なり 兼書に五應仁大乱當寺回録之刻此尊像紛失處八幡郷内從一位町長谷川
道慶入道為現當二世六親眷屬以過分財錢令買得 觀音竜虎三幅對 兼書に
奉寄附者也于時文明十戌戌年二月十五日とあり 大嶺藥山圖二幅 兼書に
畫幅に在り年 因祖若御買りて其より御奉納なり 開極法雲和尚墨跡 維
筆りてその五幅對 乾鳥画 玉碯 墨梅 楊補之 開極法雲和尚墨跡 維

摩居士贊 石林和尚筆 趙子昂書 張瑞圖書 人物圖 趙千筆 墨梅 雪崖筆 山水

唐寅 唐畫筆 虛堂肖像 者不詳 人物芭蕉松兔三幅對 明梅里筆 四天王像四幅 唐畫筆

十六羅漢像十六幅 同上 十六善神 同上 拾得圖 然可翁兩妙茂和尚贊 觀音大

士像 然可翁畫廣智國師贊 不動尊像 妙澤和尚畫贊 白衣觀音像 北殿司筆 神仙圖 同上

山水 周文筆 同 雪舟筆 三聖人圖 同上 福祿壽童三幅對 雪村筆 叙迦支殊普賢

三幅對 啓書筆 蓮鷺圖二幅對 相阿跡西 鷹圖 萬里居士畫贊 竹雉子圖 足利義純公畫

張果良圖 永德筆 義教公肖像 筆者不詳 秀吉公肖像 畫者不詳 四聖

圖 映川國師畫贊 夢窓國師墨跡 寧一山墨跡 大燈國師墨跡 大應國師

墨跡 大照禪師墨跡 維摩居士讚 無住國師筆 一休和尚墨跡 春溪和尚

墨跡 古劍和尚墨蹟 笑隱和尚墨蹟 天隱和尚墨蹟 悟溪和尚

墨跡 特芳和尚墨蹟 慶甫二字 九洲和尚筆 諸山疏 葉彦和和尚筆 關山行狀

記附 妙真寺記 無隱德吉和尚筆 尊氏公手蹟 觀應三年六月十三日花押あり 秀吉公自詠

和歌 自筆 後醍醐天皇末寺圓光寺境内安堵繪 元弘三年十月八日 後光嚴

帝境内安堵繪旨 文和元年十一月九日 同寺領安堵繪旨 貞治五年四月十一日 同熱

田院宣 貞治四年十二月十一日 伏見帝熱田院宣 永仁六年九月一日 院宣繪旨 同熱

久我内大臣通相公境内寄進狀 延文四年二月卅日 同五年閏四

宇宙 村上天皇より具平親王に 久我家代 久我家の後継者

一宮少島 久我家に傳へ

足利義詮公寺號御教書 文和二年十月廿八日 同安堵御教書 貞治三年六月十九日

尊氏公安堵御教書 文和三年三月廿八日 同末寺圓光寺境内安堵御教

書 建武三年十月七日 義持公安堵御教書 應永十八年三月廿三日 義量公安堵御教書

應永卅二年九月二日 義教公安堵御教書 永享二年三月二日 義勝公安堵御教書 文安元年

八月 義政公安堵御教書 長祿二年十二月廿四日 義尚公安堵御教書 長享元年十二月廿三日

植公安堵御教書 永正八年正月廿九日 高階師貞證文 曆應二年四月廿日 細川武藏守

頼之證文 明德二年八月七日 細川勝元證文 長祿二年四月二日 斯波左兵衛義廉

證文 長祿四年 織田出雲守常竹證文 應永十一年 同伊勢守常松證文

支 應永十五年 同達勝證文 永正十三年 斯波左兵衛督義淳制札 應永十二年 同

卅年九 織田大和守制札 嘉吉三年 同紀伊守廣遠制札 延德二年 同

五郎制札 文龜三年十一月日比介宸翰より將軍家の御教書武家方の寄

寄進状 嘉曆二年十月廿五日散位宗顯 貞和三年九月三日宗顯 同五年三月二日

元應二年七月十日高階泰隆 延文四年三月二日顯西 貞治二年七月五日泰隆 應安四

元應十二年十一月十五日直盛 同十六年八月廿二日沙弥宗直 同十八年八月廿二日宗源祥

了河 永享元年十一月廿日藤原久親 長祿二年四月七日元行 明應五年 讓渡状

元應二年四月三日沙弥美念 元弘二年八月九日尾張齊俊 嘉曆二年二月廿四日沙弥帰

應永九年十月十六日沙弥常竹 同十年正月十一日良閣 賣渡状 弘安五年五月廿九日沙

同廿一年十二月十三日性秀 嘉吉三年三月四日全瑞 同廿六年三月廿二日藤原泰經 應永十

月十三日尾張宣俊 元弘二年正月十一日尾張齊俊 元德三年十二月廿日藤原泰經 應永十

六年十月廿三日長明 同十八年十月三日信德 同十九年十一月廿五日善弥六入道善秀 同廿

五年十二月十三日善政 同廿七年極月十七日牛太郎同後室 永享 沽却状 貞和五年

二年十一月廿四日勝福寺住日海以下三人 康正元年十一月三日宗文 沽却状 三月十日

沙弥覺象 觀應元年十月八日源祐俊 康安二年二月三日源清貞 貞治五年五月三日泰

隆 同六年九月廿六日高階經久左京亮直經 明徳五年十月十日安義已下三人 應永二年十月

十三日長徳 同十年二月十八日景演 同十一年十月十五日宗直 同十七年八月廿二日龍吉 同十九

年二月九日沙弥性秀沙弥宗直 同廿五年十一月四日宗了 同廿六年十月一日令精 永享

十一年十二月三十日 沽券状 貞和二年閏九月十三日宗顯 康安二年三月十日泰隆 應永六

年十月廿三日安久將監安嘉 二年七月十二日沙弥道壽 明徳五年二月六日長徳 應永六

同十四年正月十一日安吉 契約状 貞治二年十二月十三日能親 坪付注文 文和五

十日沙弥證覺 應安 放券状 觀應二年四月廿三日宗顯 貞治四年 賣券状 應永

三年八月日沙弥宗天 六月廿七日泰隆 應安二年二月音宗天 永正十三年十二月一日織

九年十月廿一日信徳 同廿五年十月十五日宗策 執達状 永正十三年十二月一日織

九 與證状 永享十一年十一月廿日久親 書状 應永二年八月廿八日法眼長圓 同五

常松 同廿五年十二月十三日大使代 室徳四年三月廿四日坂井入道 長祿二年十二月廿

四日貞基之清 文明五年六月十一日敏廣 長享元年十二月廿三日長秀元定 明應六年

十一月十二日林九郎 同十年正月十三日与三太夫吉房 同八年十月十九日寛廣 永正十

三年極月七日定次 同十四年十二月七日前野廣久 大永六年八月廿七日達勝 天文二年

十二月廿六日織田彈正忠信秀 同六年五月 此外織田氏の古書百とりにて

廿四日吉田高吉等あり 略々 又武田信玄の書簡狩也七郎 友久親 遠藤三郎宗次とりにて

田大宮司家の人々 荒尾民部少輔宗頭二宮備中守入道省忠等

歴々の武家名家の證状 減小多くて 海内の古證文ハりにて

器財の類ハ 牌四枚 坐禪故參祈禱嚴淨の八字 點茶點湯

共一宋回無準和尚筆

牌張即普回向浴佛偈二枝同 趙子額清の一字 同上堂の二字 大

應國師袈裟衣一 大照禪師袈裟衣一 南化國師袈裟衣一 秀吉公御膳三枚 阿古御寄附

陀鏤子中島藏 中央唐製慶甫 同和尚寄附 香合大小二具大 寶鈴天竺

彫蓼花鏡湖州孫 南京淨瓶一對大照禪師所持 屏風一雙古法 同土佐將 衣吉秀

法磬朝鮮 鈴南蠻 獅子香爐交趾 屏風一雙古法 同土佐將 衣吉秀

公柳 寄附 大應國師塔銘稀世の古物にして世人これと羨すべし

勅 謚 圓 大 日本 國 關 東 道 相 州 巨 福 山 建 長 興 國 禪 寺 勅 謚

圓 資 慶 元 路 金 鶴 山 竺 天 曆 萬 壽 永 祚 禪 寺 任 持 廷 俊 撰

傳 而 悟 善 大 夫 江 浙 等 處 行 中 書 省 左 萊 周 伯 琦 諸 篆 書

愚 得 虛 松 源 岳 々 爲 一 傳 而 爲 大 慧 果 一 爲 虎 丘 隆 々 三

師 也 國 師 諱 紹 明 而 在 日 東 者 建 長 庵 岩 再 傳 而 爲 藤 氏 如

戒 往 依 建 長 寺 淨 溪 隆 公 正 元 間 航 海 至 宋 福 泰 知 識

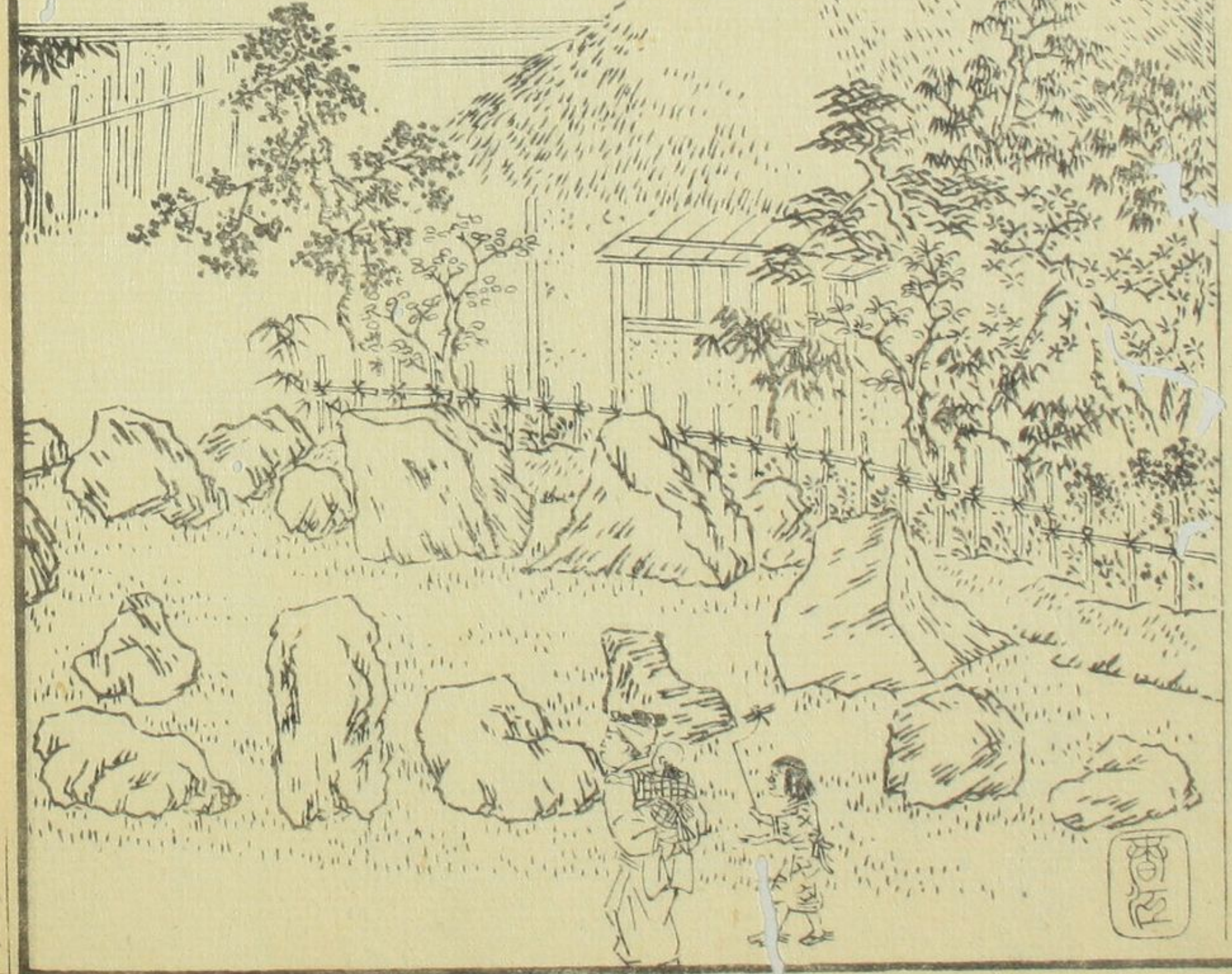
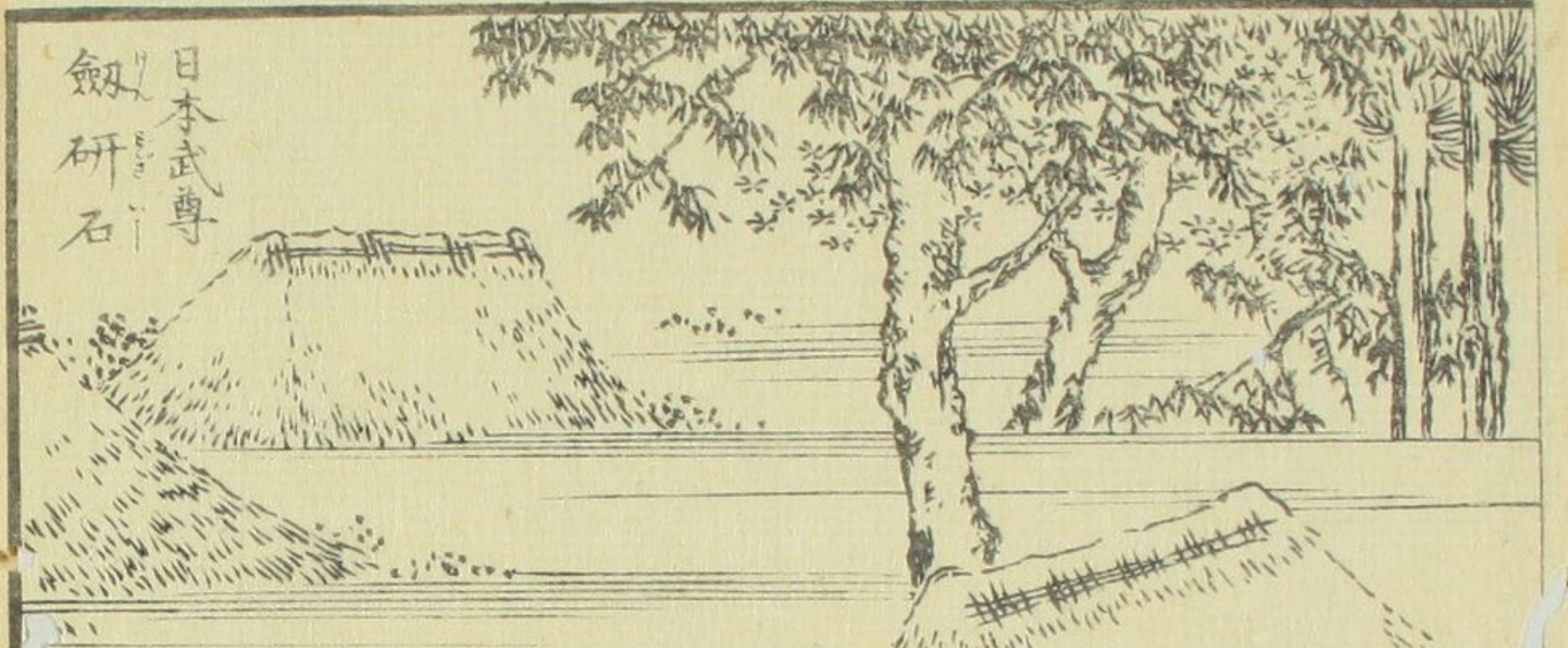
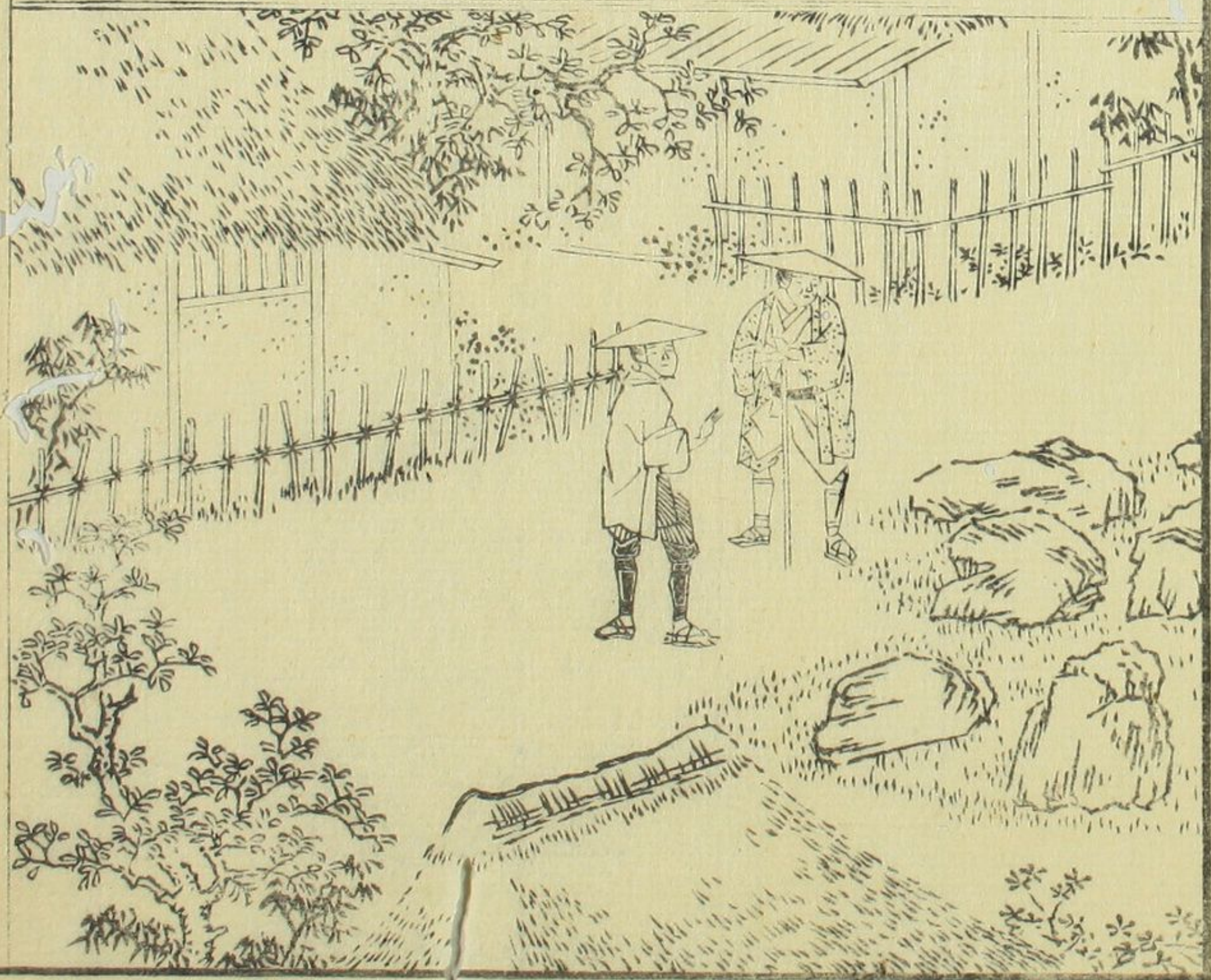
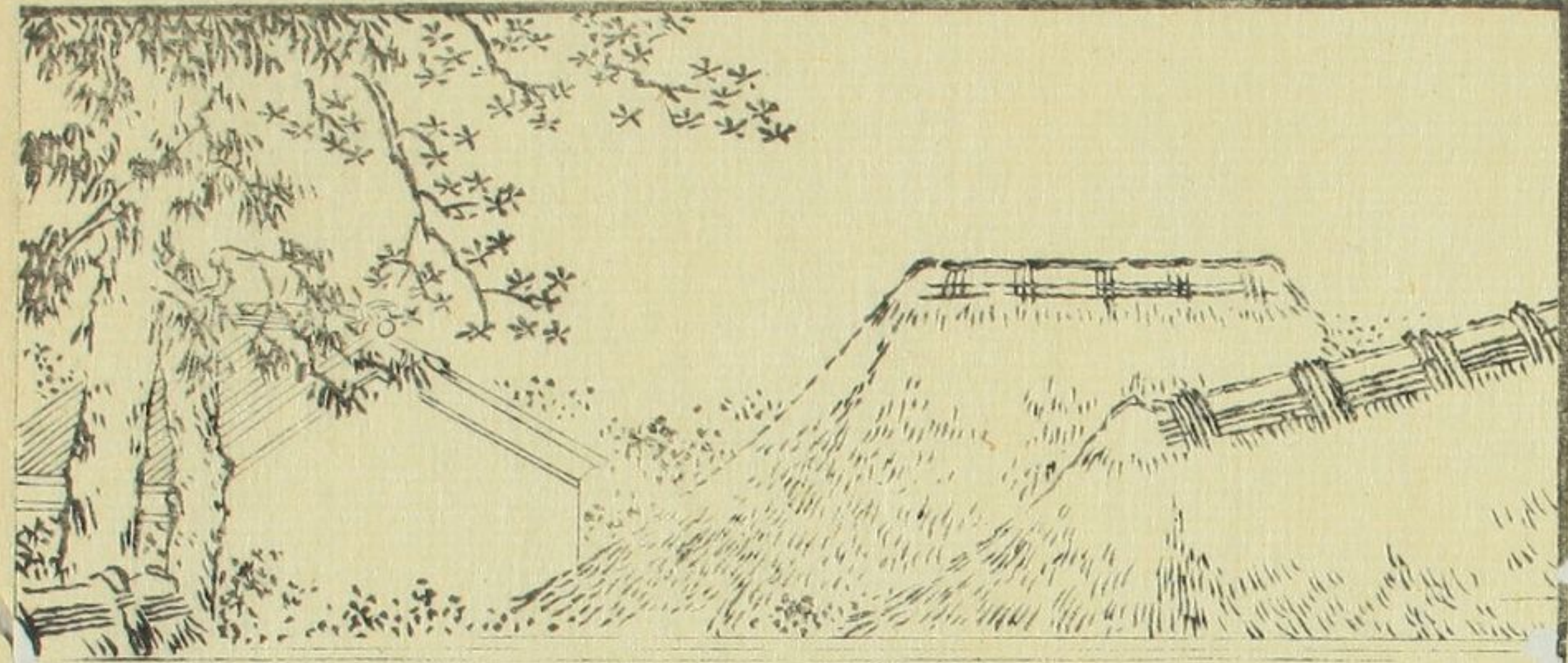
謁 虛 堂 愚 公 主 淨 慈 門 庭 高 峻 學 者 望 崖 而 却 須 彌 堂

云掛後如何師云黃河向北流堂云未更道師云
其甲後如何師云黃河向北流堂云未更道師云
尚莫瞞人好堂云叅去久而令與賓客日夕咨扣
一日使善畫者寫堂壽像請贊堂撥筆書曰紹既
白語不失宗手頭敲弄金圈栗蓬大唐國裡無人會
又却乘流過海東時咸浮改元之夏六月也秋
八月堂奉詔遷徑山俾師與俱師益策勵一夕秋
靜定中起大法悟呈偈曰忽然心境共忘時大地
透脫機法王法身全體現持人相對不相識咸摩
報衆曰這漢忝禪大徹真自是一門庭細揣摩路
秋師曰這漢忝禪大徹真自是一門庭細揣摩路
盡處再經日過明明客々說與虛堂曰敲門兒孫日
通首後源曰長老聚頭自發龍峯會裡家私袖裏求
老僧今座曰明過客々說與虛堂曰敲門兒孫日
道珍衛既歸當本國文永四年也揚驢行萬里水程
藏教東拂提唱有十鐵樹生花正歸未將佛法掛
皮無端今夜始開口鐵樹生花正歸未將佛法掛
年秋從西都出世築州之興德禪寺遂以嗣法吾道
入院語因墨侍者呈徑山堂得之大宰府之崇福
東矣其為堂徒重如嘉元甲辰奉詔入京師福
上皇召對官掖問日答稱旨特差住持下萬壽寺
貴遊問道者車馬日駢集又東山故址興造嘉元
禪刹延師為第一祖德治師即署所演法復敷奏
寺而相州太守平崇演請師即署所演法復敷奏

主巨福山建長興國禪寺明年春
存日來無所來明年臘月廿九日
九日其意明年當延慶戊申臘月
莫論其手書年當呵風馬兩佛祖
至猶書年如跌而逝世壽七十有
度弟宗崇福運南禪卓南禪國馬
者興聖志崇福運南禪卓南禪國
福一萬壽心崇福運南禪卓南禪
龍翔友等若千奉龍閣維護設利
上哀慕不已塔骨石舍利寺之塔
曰祥雲弟子在長建塔瑞雲之地
在崇福者奉舍利塔瑞雲之地
兩雪火遂滅求可藏舍利塔瑞雲
夜半阿發光迹之得馬遠尤異之
夏四月比丘省規所撰其師住禁
國師之門人宗規所撰其師住禁
道之在天下無間乎海之內外也
為蕃之歸如圓通大應國師之內
致衆昭其化也東海是宜銘
而大荒之內東海是宜銘
尤能代綿歷無終窮
尤能代綿歷無終窮

抑有者碩居其中
圓通大應國師
卓行懿德蘭洲象
所至擊鼓橫撞鐘
龍伯曩曩蚊虻充
魁期溢化示有終
火餘設利光幢々
宰堵昂峙海上峯
虛堂之道光禪叢
南山我々石可攻
百世過者宜肅恭
宜爾雜還來象龍
佩錫與數禮益隆
龍人圍繞華雨濛
天人圍繞華雨濛
啓覺范蠡起凡庸
獸鬼躡躡弟無從
海天不夜貫長虹
山君川石謹堂封
曹惟國師躬厥躬
勒之干以昭玄功
法孫比丘立

群書一覽小塔の法模刻本漢文の跋を引て大應國師の塔銘本州中島郡妙興寺に在者
蓋元人の刻す所なりと云ふ師没する時其徒走て碑銘と元朝の賢豪の銘九三三の海の
航して是を得てゆくと云ふ去年余源子開と往て師の塔と拜し文とぬじりぬの銘字の欠と玩ひし君
叙ニう又ニう一併と云ふこの法模のふらと仰ぎ文とぬじりぬの銘字の欠と玩ひし君
子則介子の人の大邦と銘するもを次其れらるる總て是師徒の高徳禪師と満く授けし
布施も寛政己未尾尾法泰島嶽とある又後五年感宗初尚が著す所の大應録も此法と
出せりされ小異ありとあり
今本書のりて記す
塔頭西住院 梅華元尽藏小尾之妙興寺
西住院とありハことなり
大陽菴 あり
菴に保童丸の法とありて賣茶次元禄の頃住僧其陽居一可笑軒と号し小兒と療治次
修ふ名を名を來る 國君地と居て居てと寺と久法寺と名づけ小兒科をせらるる
のらるる僧とて留所とありハ大陽菴
少も其製法と失つて今に賣茶す 耕雲菴 種玉菴 桂昌菴 瑞芳菴 丹羽郡
猿海道村かわりあり二三世大機圓融禪師開基の基後より中へ易地一實正年中無隱和者
こゝ小退去ありぬるなり毎居わると并基とありあり無隱和者徳吉とあり開山行狀記



日本武尊
劔研石

二五九

西

墓村として古代の墓と出土品、これら中に曲玉神管石を有し、
はなは上古十柄の神鏡と研一所と法州中村正徳らの注あり

川曲神社 子社利村 延喜神名式小川曲神社と云々、本國神名帳小従三位

河曲天神と云々、りり里俗十三權現と称する、貞治の國帳の神階従

三位と云々と十三と心得なきひと云々
本社熊野社御鏡社
例祭八月廿一日

大神社 於保村ありて
天王社と稱す 延喜神名式小中島郡大神社と云々、同臨時祭式小

多神社と云々、本國帳小従一位多名神と云々、官社あり祭神ハ新撰

姓氏録と云々、多朝臣祖神神八井身命と云々、是 神武天皇第二

の皇子と云々
今相殿ハ王子と配享するハソノの頂より、天王社と誤るる事
起り、本社大明神社神明社例祭八月廿日祠官山田氏

文德實録曰嘉祥二年九月神祇權少祐正六位上占部業基向尾張大神社告以賀

瑞之由大赦於建禮門前以遣使也
同書曰仁壽三年六月庚午以尾張國多天神預於名神

同書曰仁壽三年七月辛丑加尾張國多名神從五位上
三代實録曰元慶元年閏二月廿六日戊戌授尾張國正五位下多名神正五位

拜師舊郷 林中村と云々和名抄小
中島郡拜師と云々

陸田御厨 陸田村と云々大神宮の御厨と云々 神鳳抄ハ尾張國陸田御厨と云々
曰地と云々隣村次郎丸村も同抄に尾張國四郎丸と云々

赤池里

赤池村と云々、康正二年這内裏段錢英國役引付に三浦平四郎殿尾張國中島郡

撰要の別紙追加曲 梅居と云々本郷徳頃古書にて御事ハの海道と云々、誠河ハ上果園の
尾川浪と云々水のあつて行やと云々誰の心と云々めん不破の雲をの扱び、河をのわきにまゝ

尾川浪と云々水のあつて行やと云々誰の心と云々めん不破の雲をの扱び、河をのわきにまゝ

尾川浪と云々水のあつて行やと云々誰の心と云々めん不破の雲をの扱び、河をのわきにまゝ

尾川浪と云々水のあつて行やと云々誰の心と云々めん不破の雲をの扱び、河をのわきにまゝ

三本木池

赤池村の成まの方向にあり池をに接の大樹三株あり、大風ハ街並水中ハ入て今

も美濃の各勢、糸の北ハ麻線、池と云々、其地と云々赤池と云々、村名も云々、起り

其地と云々赤池と云々、村名も云々、起り

長沼山萬徳寺

長中村 長中村 真言宗として山城國醍醐の報恩院の流派、由

の、少宗の大本寺と稱し、末寺神小多く境内も廣大なり

神當寺ハ神護景雲二戊申年慈眼上人の創建として、稱徳天

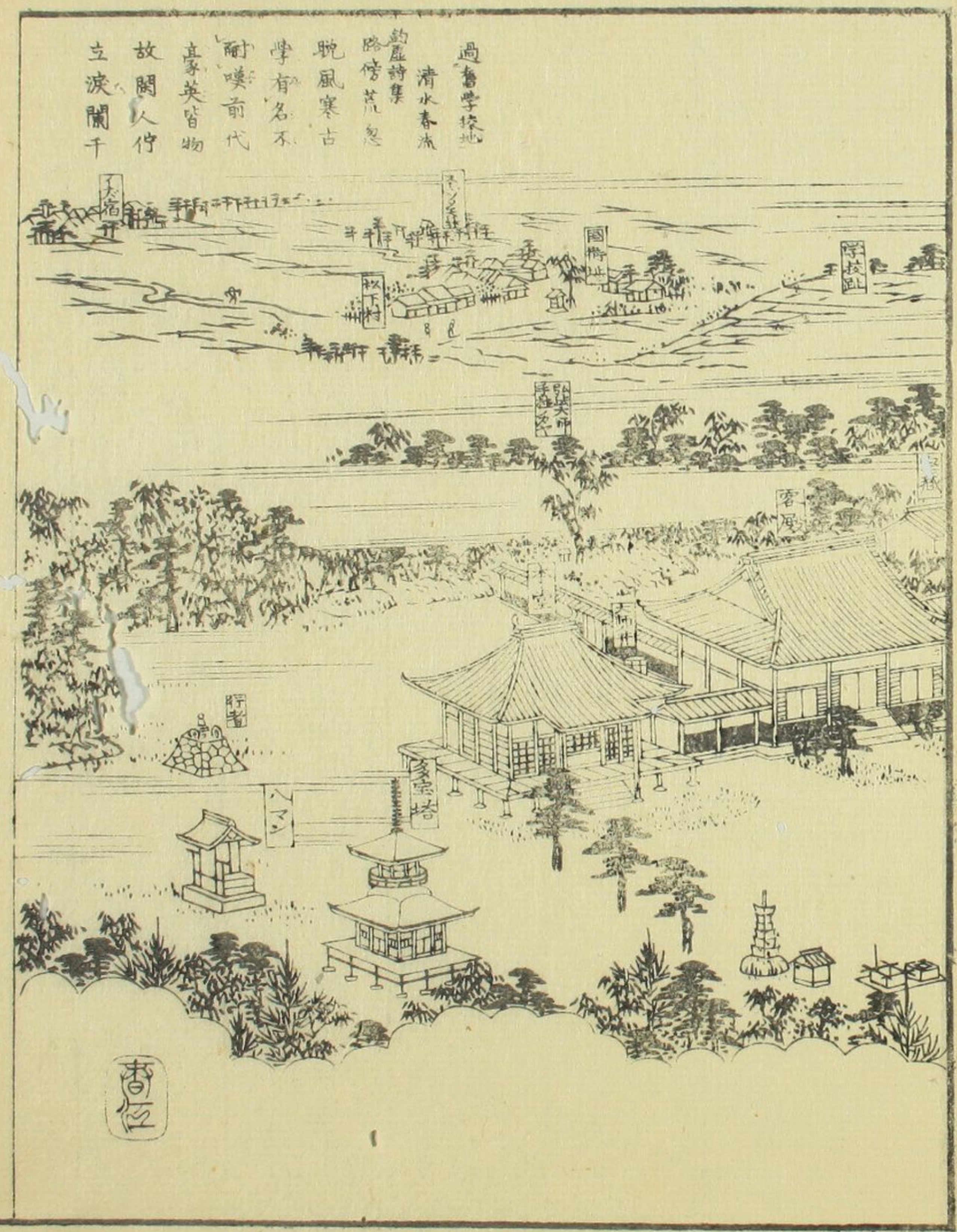
皇の勅願として、續日本紀、代實録等に、鶉沼川決損餘

万徳寺
 國衙廳館跡
 同學技址
 修理若御子社

園衙舊址懷古
 天野信景
 松屋
 松下無人孤
 柳眠免葵戀
 麥秀平疇千
 年事往山川
 老遠鶴空歸
 一古坵



過香學校地
 清水春流
 釣庭詩集
 路傍荒忽
 晚風寒古
 學有名不
 耐嘆前代
 喜英皆物
 故闕人竹
 立波闌干

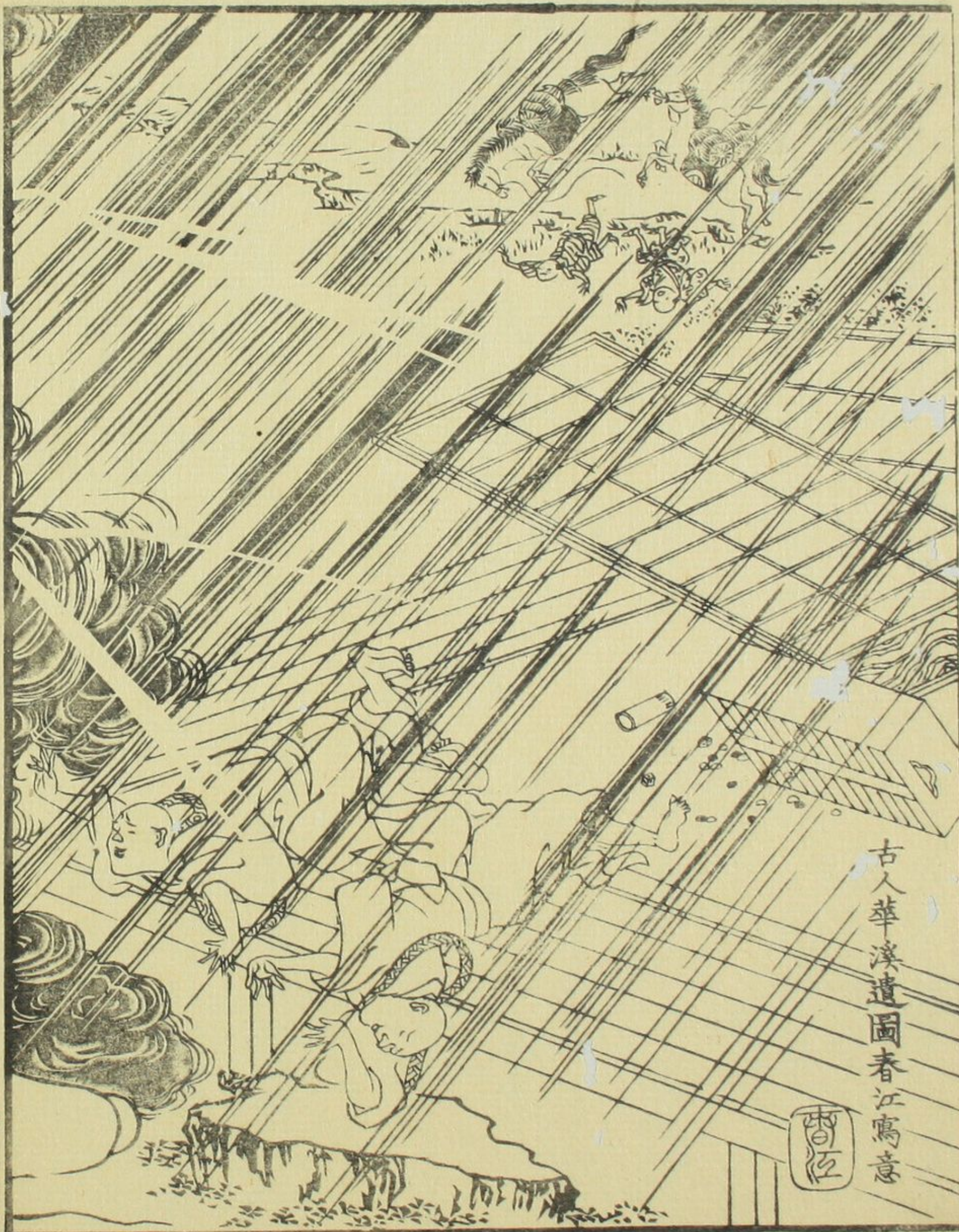


香



のあるものにほゞざる事ハ世の如く所あると
 は因の事柄と重なるに沙石集の文意に
 一と一とをわけて一候を虚とする
 事ふれ

砂石集に去る
 支永七年七月
 十七日尾張の
 下泊の若小雷
 落てた馬三足
 蹴換して小家に
 入て帷子小
 笠をかいて及六
 丁居る法師の巻
 小かちあつてかき
 せしむるにから
 せしむるにから
 せしむるにから
 法師もつゝか
 次の日本の深
 迫せしむるに
 云々



古人華漢遺圖春江寓意



織田兵庫助敏廣城址

此村あり敏廣が武衛家の軍將と武衛が敏廣の今川家とを以て
 の水鏡と傳へて是れ合戦す敏廣は在陣の時武衛義康と
 日暮敏と家督の争論より軍起り尾張の軍兵と京都にのりて平定す
 正にの陣と辨つて油小路にあり中の流人より辨起りて下津の城と攻んと
 文正記より

加藤遠江守光泰舊宅

日村にあり光泰より作り作りし秀吉公の侍人妙々殿の七本
 槍の一人なり又と左近大夫貞泰より光泰敏廣田家小笠原豊良
 家小属一云々いふ事ありし時小甲斐国二十四万石と拜領し文祿の
 初より朝鮮征伐の軍時加藤
 被地が押入ありし時名を改り其陣中より平去りし事ありし人の
 言ふ事ありし時又加藤の馬助嘉明も此村の人の豊原の住人なり
 我々録七人の一人なりと云々いふ事ありし時天正十三年の秋伊
 藤赤松の城六万二千九百石
 と傳へりし年月と述べて傳進し寛永四年二月十日奥州今津
 若松の城四十万石と取交りし事ありし人の言ふ事ありし時

小池山正明寺

小池正明寺村あり地味宗より地味村にありし時
 妙々の古傳ありし時作りし地味宗の像へ行基菩薩の真作なり

四ツ屋

井池口村と六角堂村の間にあり起街道と一宮街との岐ありし時俗に
 近分ともいふ事ありし時
 殺前ありし人なりと云々いふ事ありし時

浅野長勝屋敷跡

六角堂村の間にあり長勝ハ秀吉公の此政所及び浅野長政の
 又より長勝又よりいひて伝ふ事ありし時

興化山長光寺

日村の間にあり地味宗より地味村にありし時
 備前慈見院末

奥一其後元禄四年崑山長光再建次

六角堂
 其長五尺七寸 文徳
 天皇の仁壽元年梵僧一人来りて一夜のうちに佛ありし時
 其像全身ありし時半身手足多に汗と流し其興化と云ふ事ありし時
 古今變らば寺代の事ありし時

尾張名所記云此堂ハ武田
 家通より造り所本此地蔵ハ
 銘に東より大和国大田
 子の地蔵と撰とありし
 六道能化と形と堂と六角小
 造なり

六角堂長光寺



香印

